

2023年度
日本魚類学会年会
プログラム速報版

Program
for
the 57th Annual Meeting, 2023



会期：2023年9月1日(金)～4日(月)
場所：長崎大学文教キャンパス



一般社団法人 日本魚類学会
THE ICHTHYOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

表紙の魚 (左上、右上、左下、右下の順)

シマフグ *Takifugu xanthopterus* 写真撮影 長崎大学 山口敦子・古満啓介

シマフグ *Takifugu xanthopterus* グラバー図譜 萩原魚仙 画 長崎大学附属図書館所蔵

アヤマカサゴ *Sebastiscus albofasciatus* グラバー図譜 小田紫星 画 長崎大学附属図書館所蔵

アヤマカサゴ *Sebastiscus albofasciatus* 写真撮影 長崎大学 山口敦子・古満啓介

日本西部及び南部魚類図譜 (通称：グラバー図譜) とは

明治末から昭和初期にかけての約 25 年間に、倉場富三郎(Thomas A. Glover : 1871~1945)が長崎魚市で収集した魚類や甲殻類などをもとに作成・編纂した図鑑です。富三郎は、スコットランド人貿易商の Thomas Blake Glover と日本人の母との間に長崎で生まれました。富三郎は、アメリカ留学を経てホームリンガー商会に入社すると、長崎汽船漁業を設立します。イギリスから輸入した鋼製トロール漁船により五島沖などで操業を開始し、日本で初めてトロール漁業に成功すると、長崎市に驚異的な魚の水揚げをもたらしました。富三郎は長崎在住の 5 人の画家 (小田紫星、長谷川雪香、中村三郎、萩原魚仙、井上寿一)を順に雇い、長崎魚市で魚を購入しては、形態や色彩から鱗数や棘軟条数に至るまで正確に描写させ、全 32 集 (806 図) を完成させました。各図譜に長崎の地方名とともに鉛筆で記された各種の学名は、富三郎が研究した上で決定したもので、学術・美術的な価値に加え、歴史・文化的な価値も高い資料です。

晩年の富三郎は外国人の血が流れていたことでスパイ容疑をかけられ、住み慣れたグラバー邸も取り上げられたまま、終戦の年の 8 月末に自ら命を絶ちました。遺言により、グラバー図譜を受け取った渋沢敬三の判断で、1950 年に長崎の地に戻されることとなり、その後、長崎大学に寄贈されました。

グラバー図譜は現在、長崎大学附属図書館・貴重図書室で大切に保管されています。

2023 年度日本魚類学会年会

行事：編集委員会	9月1日（金）12時00分－14時30分
代議員総会	9月1日（金）15時00分－17時00分
総会・受賞者講演会	9月2日（土）11時10分－12時40分
自然保護委員会	9月3日（日）12時30分－13時30分
研究発表	9月2日（土）9時00分－17時30分
	9月3日（日）9時00分－16時40分
懇親会	9月3日（日）18時30分－20時30分
シンポジウム	9月4日（月）9時30分－16時00分

会場：長崎大学文教キャンパス グローバル棟・環境棟
〒852-8521 長崎県長崎市文教町 1-14
<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/access/bunkyo/>

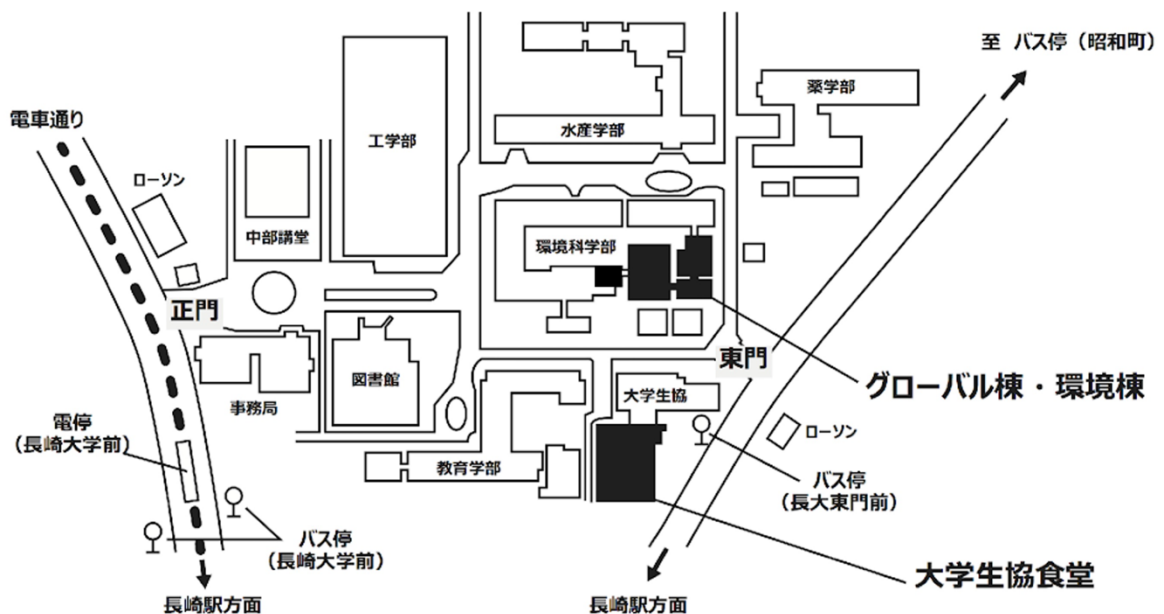
懇親会：ホテルニュー長崎

<https://www.newnaga.com>

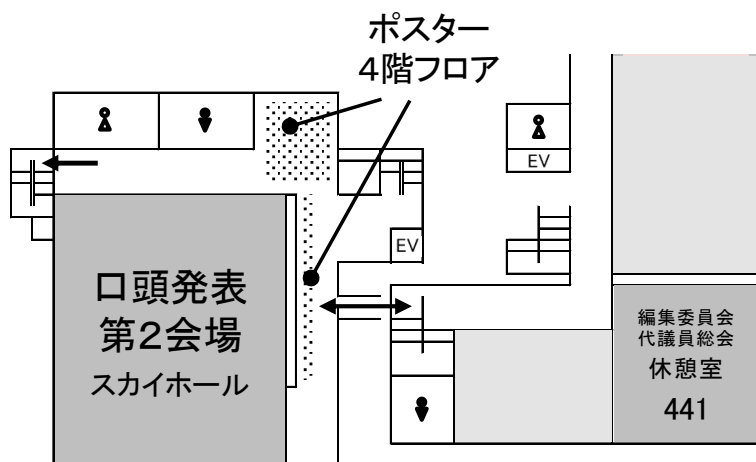
JR「長崎駅」から徒歩約5分

路面電車「長崎駅前」から徒歩約2分

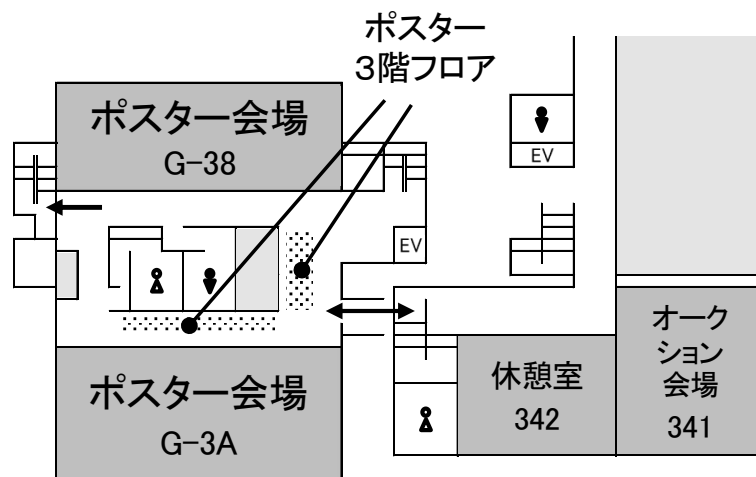
※懇親会会場への送迎は行いません。文教キャンパスから懇親会会場まで、徒歩と路面電車（あるいはバス）を合わせて約30分です。



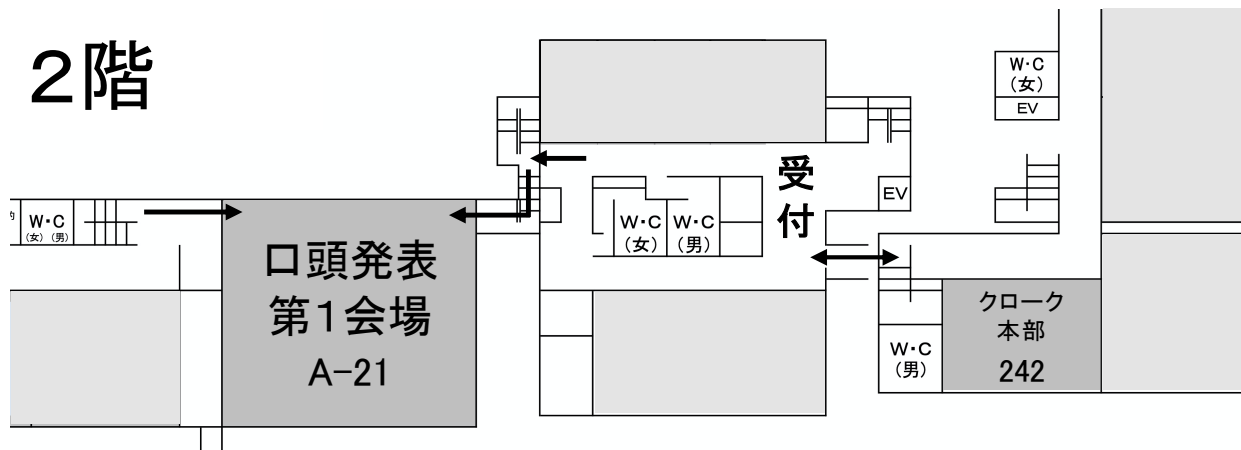
4階



3階

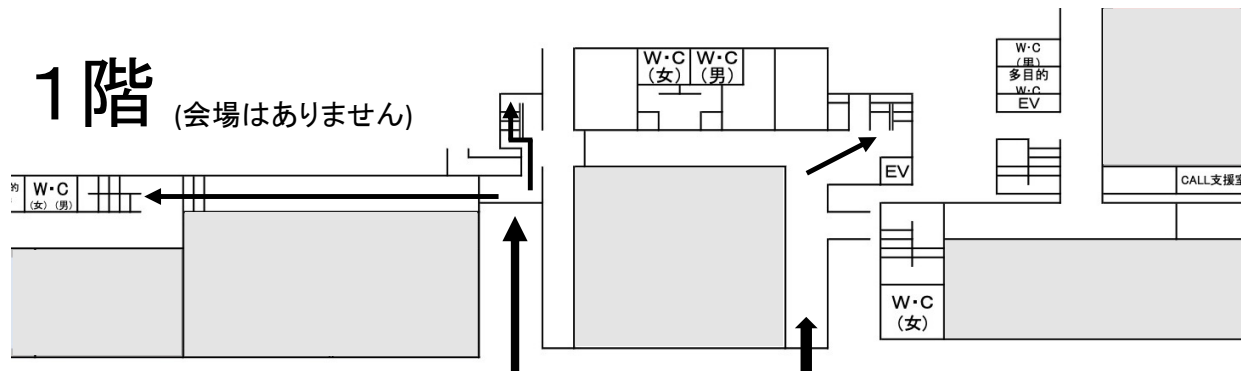


2階



1階

(会場はありません)



正門
方面

出入口
A-21教室

出入口

東門
方面

2023 年度日本魚類学会タイムスケジュール

9月1日(金)

12:00~14:30 編集委員会 (441) / 15:00~17:00 代議員総会 (441)

9月2日(土)

☆優秀発表賞 応募者発表

	8:00~	9:00-10:00		10:05-11:05		11:10-12:40	12:40-13:30	13:30-14:30		14:35-15:35		15:40-16:40		16:45-17:30
口頭発表 第1会場 (A-21)	受付	分布・魚類相 /保全/系統/分 子遺伝・解析 1~4☆	休憩 5分	分類/形態 5~8☆	移動 5分	総会 受賞式 受賞講演	昼食 生協食堂は 11:30-14:00 まで営業	/	移動 5分	分類/分子遺 伝・解析 9~12☆	休憩 5分	分子遺伝・解 析 13~16☆	休憩 5分	形態/系 統 17~19
口頭発表 第2会場 (スカイホール)		行動 40~43☆		生態 44~47☆		生態/卵・仔稚 魚 48~51☆		保全 52~55☆		生態 56~58				
ポスター発表 (G-38・G-3A・ 3,4階フロア)		ポスター展示 79~195☆						コアタイム 奇数☆	ポスター展示 79~195☆					
オークション (341)		入札 8:30-17:00												

9月3日(日) 12:30~13:30 自然保護委員会 (441)

	8:00~	9:00-10:00		10:05-11:05		11:10-12:10	12:10-13:30	13:30-14:30		14:35-15:35		15:40-16:40		18:30-20:30
口頭発表 第1会場 (A-21)	受付	分類 20~23	休憩 5分	分類/分布・ 魚類相 24~27	休憩 5分	分布・魚類相 28~31	昼食 生協食堂は 11:30-14:00 まで営業	/	移動 5分	分布・魚類相 /保全 32~35	休憩 5分	保全/その他 36~39	移動	表彰式 懇親会 (ホテルニュー ー長崎)
口頭発表 第2会場 (スカイホール)		行動 59~62		行動/生態 63~66		生態 67~70		生態 71~74		生態/卵・仔 稚魚 75~78				
ポスター発表 (G-38・G-3A・ 3,4階フロア)		ポスター展示 79~195☆ 高校生 H01~12						コアタイム 偶数 高校生発表	ポスター展示 79~195☆ 高校生 H01~12 (表彰式 16時)					
オークション (341)		入札 8:30-10:30	開札					落札者受け取り 13:30-15:30						

9月4日(月) シンポジウム

	8:30~	9:30-12:30
シンポジウム 第1会場 (A-21)	受付	名古屋議定書の基礎と近年の動向を 魚類学研究の視点で考える
シンポジウム 第2会場 (スカイホール)		10:00-16:00 シーボルト魚類標本と江戸参府紀行

2023 年度 日本魚類学会学会賞

日本魚類学会賞

宮 正樹 (千葉県博)

日本魚類学会奨励賞

小枝 圭太 (琉大理)

受賞講演

「魚たちの今昔—ゆるやかに変化する黒潮流域の魚類多様性」

日時：9 月 2 日(土) 12:10~12:40

場所：口頭発表第 1 会場 (A-21 教室)

日本魚類学会論文賞

- Comparative phylogeography of coastal gobies in the Japanese Archipelago: future perspectives for the study of adaptive divergence and speciation.
Ichthyological Research, 69: 1-16
平瀬 祥太郎 (東大水実)
- Generic revision of the species formerly belonging to the genus *Carangoides* and its related genera (Carangiformes: Carangidae).
Ichthyological Research, 69: 433-487
木村 清志・武内 俊・宿女 太志 (三重大院生)
- 東北太平洋沖における着底トロールで採集された魚類の分布に関する新知見.
魚類学雑誌, 67: 265-286
三澤 遼 (水産機構資源研)・木村克也 (北大院水産)・水町海斗 (高知大理工)・服部 努・成松庸二・鈴木勇人・森川英祐・時岡 駿・永尾次郎・柴田泰宙 (水産機構資源研)・遠藤広光 (高知大理工)・田城文人 (北大総合博)・甲斐嘉晃 (京大フィールド研)

研究発表プログラム

口頭発表

発表 12 分と質疑応答 3 分の計 15 分です。

☆は優秀発表賞応募発表を、○は演者を示しています。

口頭発表 第 1 会場 (A-21)

9 月 2 日 (土)

9:00~10:00

(分布・魚類相/保全/系統/分子遺伝・解析)

- 1☆ 9:00 中国揚子江から得られていたチョウザメ *Acipenser medirostris* および有明海から報告されたチョウセンチョウザメ *Acipenser dabryanus* の検討
○熊本 慧弥 (高知大理工)・小枝 圭太 (琉大理)
Green sturgeon, *Acipenser medirostris* from Yangtze River, China and authenticity of Yangtze sturgeon, *Acipenser dabryanus* from Ariake Sea
○Keiya KUMAKI and Keita KOEDA
- 2☆ 9:15 バラタナゴの亜種およびクレードの判別手法の開発
○太古 数馬・高橋 鉄美 (兵庫県大院環境)
Development of a method for discriminating subspecies and clades of Rosy bitterling (*Rhodeus ocellatus*)
○Kazuma TAIKO and Tetsumi TAKAHASHI
- 3☆ 9:30 シマドジョウ問題：異質倍数化と生態適応のモデルとして
○三内 悠吾 (京大農)・田畑 諒一 (琵琶博)・渡辺 勝敏 (京大院理)
Spined loaches as a model system for the study of allopolyploidization and ecological adaptation
○Yugo MIUCHI, Ryoichi TABATA and Katsutoshi WATANABE
- 4☆ 9:45 ヤマトシマドジョウ種群の各染色体多型集団の分布様式とそれらの類縁関係
○岡 隼斗 (近大農)・八嶋 勇氣・上地 健琉・北川 忠生 (近大院農)
Distribution pattern of different karyological populations and their relationships of *Cobitis* sp. 'yamato' complex
○Hayato OKA, Yuki YASHIMA, Takeru UECHI and Tadao KITAGAWA

休憩 10:00~10:05

9 月 2 日 (土)

10:05~11:05

(分類/形態)

- 5☆ 10:05 *Synodus doaki* 類似種群 (エソ科アカエソ属) の分類学的再検討
○古橋 龍星 (鹿大院連農)・本村 浩之 (鹿大総博)
Taxonomic review of the *Synodus doaki* species complex (Synodontidae)
○Ryusei FURUHASHI and Hiroyuki MOTOMURA

- 6☆ 10:20 南大洋のハダカイワシ科魚類 *Krefflichthys anderssoni* の変態過程
 ○阿比留 旺司 (海洋大院)・立花 愛子 (海洋大)・茂木 正人 (海洋大・極地研)
 Morphological transformation process from larval to juvenile stage of the Southern Ocean myctophid fish *Krefflichthys anderssoni*
 ○Ohji ABIRU, Aiko TACHIBANA and Masato MOTEKI
- 7☆ 10:35 インド・太平洋に分布するマツバラカサゴ属 *Neomerinthe* の分類学的再検討および *Neosocorpaena* の有効性
 ○松本 達也 (鹿大院連農)・本村 浩之 (鹿大総博)
 Taxonomic review of the scorpionfish genus *Neomerinthe* in the Indo-Pacific Ocean, and validity of *Neosocorpaena*
 ○Tatsuya MATSUMOTO and Hiroyuki MOTOMURA
- 8☆ 10:50 ハチ *Apistus carinatus* (Bloch and Schneider, 1801) の新参異名とされていた *Apistus evolans* Jordan and Starks, 1904 の有効性
 ○樋口 聡文 (鹿大院農水)・松沼 瑞樹 (京大総博)・本村 浩之 (鹿大総博)
 Validity of *Apistus evolans* Jordan and Starks, 1904, previously regarded as a junior synonym of *Apistus carinatus* (Bloch and Schneider, 1801) (Apistidae)
 ○Akifumi HIGUCHI, Mizuki MATSUNUMA and Hiroyuki MOTOMURA

9月2日(土)

14:35~15:35

(分類/分子遺伝・解析)

- 9☆ 14:35 カジカ科アナハゼ属魚類の分類学的再検討
 ○山口 蓮 (高知大院応用自然)・遠藤 広光 (高知大理工)・中坊 徹次 (京大)
 Revision of the cottid genus *Pseudoblennius* (Perciformes: Cottidae)
 ○Ren YAMAGUCHI, Hiromitsu ENDO and Tetsuji NAKABO
- 10☆ 14:50 浅海性カジカ科魚類アサヒアナハゼの系統分化と種内交雑
 ○沖 天斗・石原 優一 (東海大海洋)・安房田 智司 (大阪公大院理)・伊藤 岳 (京大フィールド研)・古屋 康則 (岐阜大教育)・野原 健司 (東海大海洋)
 Phylogenetic divergence and intra-specific hybridization of marine sculpin *Pseudoblennius cottoides*
 ○Hiroto OKI, Yuichi ISHIHARA, Satoshi AWATA, Takeshi ITO, Yasunori KOYA and Kenji NOHARA
- 11☆ 15:05 北西太平洋に生息するアオビクニンおよびサケビクニンにおける交雑状況の把握
 ○亀井 遥香・小島 茂明・伊藤 萌 (東大大気海洋研)・成松 庸二 (水産機構)・森 俊彰 (ふくしま海洋科学館)
 Hybridization in *Careproctus pellusidus* and *Careproctus rastrinus* in the Northwest Pacific Ocean.
 ○Haruka KAMEI, Shigeaki KOJIMA, Hajime ITOH, Youji NARIMATSU and Toshiaki MORI

- 12☆ 15:20 琉球列島に生息する地下水性種“イドミミズハゼ”の分類学的検討
○是枝 伶旺（鹿大連農）・前田 健（OIST）・本村 浩之（鹿大総博）
Taxonomic review of a subterranean goby group "*Luciogobius pallidus*" in the Ryukyu Islands
○Reo KOREEDA, Ken MAEDA and Hiroyuki MOTOMURA

休憩 15:35~15:40

9月2日（土）

15:40~16:40

（分子遺伝・解析）

- 13☆ 15:40 アゴハゼの2つの交雑帯におけるゲノムクライン解析
○加藤 柁也（東大水実）・永野 惇（龍谷大農・慶応 IAB）・菊池 潔・平瀬 祥太朗（東大水実）
Genomic cline analysis on the two independent hybrid zones of *Chaenogobius annularis*
○Syuya KATO, Atsushi J. NAGANO, Kiyoshi KIKUCHI and Shotaro HIRASE
- 14☆ 15:55 lcWGS データに基づくメバチ *Thunnus obesus* の集団ゲノミクス
○音嶋 雄・小阪 圭花（東海大海洋）・岡本 慶・佐藤 佳介（水産資源研）・野原 健司（東海大海洋）
Population genomics of Bigeye tuna (*Thunnus obesus*) based on lcWGS data.
○Takato OTOSHIMA, Keika KOSAKA, Kei OKAMOTO, Keisuke SATOU and Kenji NOHARA
- 15☆ 16:10 マイクロサテライト DNA 多型に基づくアカシタビラメ・デンベエシタビラメ類の遺伝的集団構造
○田原 宏一（京大院農）・田路 拓人（三重県農林水産部）・武島 弘彦（福井県大海洋生資）・武藤 望生（北里大海洋生命）・甲斐 嘉晃（京大フィールド研）・中山 耕至（京大院農）
Genetic population structure of the *Cynoglossus joyneri* and *C. lighti* complex based on microsatellite DNA polymorphism
○Koichi TAHARA, Hiroto TOJI, Hirohiko TAKESHIMA, Nozomu MUTO, Yoshiaki KAI and Kouji NAKAYAMA
- 16☆ 16:25 トラフグ属魚類種間の模様の違いを生み出す遺伝基盤の解明
○菅原 舞人・梁田 椋也・吉川 廣幸（水大校）・永野 惇（龍大農）・柿岡 諒（琉大熱生研）・高橋 洋（水大校）
The genetic basis of color pattern variation in pufferfish (*Takifugu* spp.)
○Maito SUGAHARA, Ryoya YANADA, Hiroyuki YOSHIKAWA, Atsushi NAGANO J., Ryo KAKIOKA and Hiroshi TAKAHASHI

休憩 16:40~16:45

9月2日(土)

16:45~17:30

(形態/系統)

- 17 16:45 ニホンウナギのレプトセファルスにおける側線系
○中江 雅典・佐藤 真央(国立科博)・岡村 明浩(いらご研)・黒木 真理(東大院農)
Lateral line system in the late leptocephalus of *Anguilla japonica* (Anguillidae)
○Masanori NAKAE, Mao SATO, Akihiro OKAMURA and Mari KUROKI
- 18 17:00 ヨコヅナイワシ *Narcetes shonanmaruae* Fujiwara *et al.*, 2021 6個体目の標本の計測と解剖
○猿渡 敏郎(東大大海研)・鈴木 香里武(北里海洋・幼魚水族館)
Measurements and dissection of 6th specimen of *Narcetes shonanmaruae* Fujiwara *et al.*, 2021.
○Toshiro SARUWATARI and Carib SUZUKI
- 19 17:15 イズミ属魚類(*Kyphosus*)における鰾と鰓耙の進化 一生息地の変化と生息域拡大との関連—
○坂井 恵一(金沢大環日セ臨海)・甲斐 嘉晃(京大 FSERC)・中坊 徹次(京大)
Evolution of the swimbladder and gill-raker among the species of *Kyphosus* (Kyphosidae) in relation to the habitat changes and range extensions
○Keiichi SAKAI, Yoshiaki KAI and Tetsuji NAKABO

9月3日(日)

9:00~10:00

(分類)

- 20 9:00 初めて明らかとなった現生シーラカンス2種の明確な形態的相違, 角鰓骨について
○藪本 美孝(北九州自然史博)・岩田 雅光(アクアマリンふくしま)・猿渡 敏郎(東大大海研)・SYHAILATUA Augy・PERISTIWADY Teguh・HUKOM Frensy D. (RCO BRIN)・BRITO Paulo M.・CUPELLO Camila (U. E. Rio de Janeiro)・HERBIN Marc・CLÉMENT Gaël (MNHN)
First distinct morphological differences between two extant species of coelacanths revealed: Ceratobranchial
○Yoshitaka YABUMOTO, Masamitsu IWATA, Toshiro SARUWATARI, Augy SYHAILATUA, Teguh PERISTIWADY, Frensy D. HUKOM, Paulo M. BRITO, Camila CUPELLO, Marc HERBIN and Gaël CLÉMENT
- 21 9:15 九州本島で発見されたシノビドジョウの形態と遺伝子の特徴
○中島 淳(福岡県保環研)・橋口 康之(大阪医科薬科大)
Morphological and genetic features of *Misgurnus amamianus* discovered from Kyushu Island, Japan
○Jun NAKAJIMA and Yasuyuki HASHIGUCHI

- 22 9:30 奄美群島与論島から得られたヨウジウオ科ダイダイヨウジ属の1未記載種
○幸 大二郎 (鹿大院連農)・本村 浩之 (鹿大総博)
An undescribed species of the genus *Maroubra* (Syngnathiformes: Syngnathidae) from Yoron Island, Amami Islands
○Daijiro YUKI and Hiroyuki MOTOMURA
- 23 9:45 トウゴロウイワシ科ヤクシマイワシ亜科における属の再検討
○笹木 大地 (鈴鹿保健所)・木村 清志 (三重大)
Generic revision of subfamily Atherinomorinae (Atherinidae)
○Daichi SASAKI and Seishi KIMURA

休憩 10:00~10:05

9月3日(日)

10:05~11:05

(分類/分布・魚類相)

- 24 10:05 志津川湾産クダリボウズギス属 *Gymnapogon* の遺伝的特徴と ANEMONE データベースを用いた分布調査
○鈴木 将太・阿部 拓三 (南三陸ネイチャーセ)・佐藤 真央 (国立科博)・邊見 由美 (京大フィールド研)・太齋 彰浩 (サスセン)
Genetic characteristics of the genus *Gymnapogon* species in Shizugawa Bay and distribution survey using ANEMONE database
○Shota SUZUKI, Takuzo ABE, Mao SATO, Yumi HENMI and Akihiro DAZAI
- 25 10:20 ヒイラギ科イトヒキヒイラギ属の分類学的再検討
鈴木 啓 (ナプラ)・○木村 清志 (三重大)
Taxonomic revision of the genus *Equulites* Fowler 1904 (Acanthuriformes: Leiognathidae)
Hiromu SUZUKI and ○Seishi KIMURA
- 26 10:35 日本産ヒラメ科ガンゾウビラメ属の分類学的再検討
○松沼 瑞樹 (京大総博)・和田 英敏 (東大博)・金井 聖弥 (鹿大院農水)・田城 文人 (北大総博)・本村 浩之 (鹿大総博)
Preliminary review of the flounder genus *Pseudorhombus* (Paralichthyidae) from Japan
○Mizuki MATSUNUMA, Hidetoshi WADA, Seiya KANAI, Fumihito TASHIRO and Hiroyuki MOTOMURA
- 27 10:50 有明海湾奥部佐賀県カキ礁域周辺の調査で得た魚類標本のコレクション構築
○星野 浩一・中野 昌次 (水産機構水技研)・八谷 三和 (水産機構資源研)・栗原 健夫・岡村 和磨 (水産機構水技研)
Collection building of fish specimens sampled in and near the oyster reefs in the head of Ariake Sound, Saga Prefecture, Japan
○Kouichi HOSHINO, Shoji NAKANO, Miwa YATSUYA, Takeo KURIHARA and Kazumaro OKAMURA

休憩 11:05~11:10

9月3日(日)

11:10~12:10

(分布・魚類相)

- 28 11:10 有明海の多様な環境と魚類相～生態系アプローチに基づく海域の再生に向けて
○山口 敦子・荻野 義視(長大院水環)・久米 元(鹿大水産)・古満 啓介(長大院水環)
The fish fauna elucidated in Ariake Bay for conservation based on an ecosystem approach
○Atsuko YAMAGUCHI, Yoshimi OGINO, Gen KUME and Keisuke FURUMITSU
- 29 11:25 海流がもたらす深海魚類相の変化
○手良村 知功(産総研)・平瀬 祥太郎(東大水実)・國島 大河(和歌山県博)
Currents are changing the deep-sea fish fauna
○Akinori TERAMURA, Shotaro HIRASE and Taiga KUNISHIMA
- 30 11:40 深場の岩礁域で釣獲されたカンパチとヒレナガカンパチの胃内容物から得られた小型魚類
○中村 潤平(かごしま水族館)・是枝 伶旺(鹿大院連農)・金井 聖弥(鹿大院農水)・本村 浩之(鹿大総博)
Small-sized fishes obtained from stomach contents of *Seriola dumerili* and *S. rivoliana* collected by angling from deep rocky area
○Jumpei NAKAMURA, Reo KOREEDA, Seiya KANAI and Hiroyuki MOTOMURA
- 31 11:55 環境DNA分析に基づいた琵琶湖南湖における淡水魚類相の現状
○伊藤 玄(龍谷大生物多様性セ)・倉本 真央・近藤 昭宏・中村 昌文(日吉)・石崎 大介・田口 貴史(滋賀水試)・川瀬 成吾(琵琶博)・朝見 麻希・後藤 祐子・山中 裕樹(龍大生物多様性セ)
Freshwater fish fauna in the South Basin of Lake Biwa based on eDNA metabarcoding
○Gen ITO, Mao KURAMOTO, Akihiro KONDO, Masahumi NAKAMURA, Daisuke ISHIZAKI, Takashi TAGUCHI, Seigo KAWASE, Maki ASAMI, Yuko GOTO and Hiroki YAMANAKA

9月3日(日)

14:35~15:35

(分布・魚類相/保全)

- 32 14:35 東京湾内湾の表層域における仔稚魚相ーコノシロとカタクチイワシの産卵の可能性
○丸山 啓太 (山口大院創成)・森 竜也 (那須農振)・中島 俊平 ((株)横浜八景島)・河野 博 (長尾自然環境財団)
Larval and juvenile fish fauna in surface waters of the inner Tokyo Bay: a probability of spawning by *Konosirus punctatus* and *Engraulis japonicus*
○Keita MARUYAMA, Tatsuya MORI, Shumpei NAKAJIMA and Hiroshi KOHNO
- 33 14:50 神奈川県における国内移入淡水魚の分布拡大について
○勝呂 尚之 (神奈川水技セ相模湾)・嶋津 雄一郎 (神奈川水技セ内水面)
Distribution expansion of domestic alien freshwater fishes in Kanagawa prefecture.
○Naoyuki SUGURO and Yuuichiro SHIMAZU
- 34 15:05 岐阜県徳山ダム貯水池で生息が国内初確認されたロングイヤー・サンフィッシュ
○藤田 朝彦 (中部地方環境事務所)・細谷 和海 (近畿大)・中井 克樹 (琵琶湖博)・向井 貴彦 (岐阜大)・谷口 義則 (名城大)・森 誠一 (岐阜協立大)
Longear sunfish *Lepomis megalotis* in Tokuyama Dam Reservoir: its first finding from Japan
○Tomohiko FUJITA, Kazumi HOSOYA, Katsuki NAKAI, Takahiko MUKAI, Yoshinori TANIGUCHI and Seiichi MORI
- 35 15:20 厚木市荻野の市谷に於けるホトケドジョウへの落差と堰の影響について
○住倉 英孝 (KWN)・勝呂 尚之 (相模湾試験場)
On the effect of the weir and the drop on the Lefua echigonia in Ichiyato, Ogino, Atsugi City
○Hidetaka SUMIKURA and Naoyuki SUGURO

休憩 15:35~15:40

9月3日(日)

15:40~16:40

(保全/その他)

- 36 15:40 長期データに基づく近畿地方のアユモドキ個体群の存続可能性分析
○渡辺 勝敏 (京大院理)・三内 悠吾 (京大農)・一柳 英隆 (熊本県立大)・阿部 司 (ラーゴ生多研)・岩田 明久 (京大院 AA)
Population viability analysis for the endangered loach *Parabotia curtus* in the Kinki region, central Japan, based on long-term demographic data
○Katsutoshi WATANABE, Yugo MIUCHI, Hidetaka ICHIYANAGI, Tsukasa ABE and Akihisa IWATA

- 37 15:55 核 SNP マーカーによるヤリタナゴとアブラボテの遺伝子型判定と、自然共存域における両種の生殖隔離
○畑 啓生 (愛媛大・院・理工)・谷口 倫太郎 (岡山大院環境生命科学)・山下 尚希 (愛媛大・院・理工)・橋口 康之 (大阪医科薬科大・医)・中島 淳 (福岡県保健環境研究所)・武山 智博 (岡山理科大・生物地球)
Genotyping of two congeneric bitterling fish species by nuclear SNP markers and the detection of hybridization in a sympatric region
○Hiroki HATA, Rintaro TANIGUCHI, Naoki YAMASHITA, Yasuyuki HASHIGUCHI, Jun NAKAJIMA and Tomohiro TAKEYAMA
- 38 16:10 異なる年級群の当歳魚間に見出される兄弟姉妹関係に基づくネコギギ移殖集団の個体数推定 — CKMR 法の試行
○田口 心・水野 ひなの・中山 耕至 (京大院農)・秋田 鉄也 (水産機構資源研)・橋口 康之 (大阪医科薬科大)・大杉 奉功 (水源地環境セ)・南野 洋孝 (いであ)・鈴木 厚裕 (国交省設楽ダム)・武島 弘彦 (福井県大海洋資源生)
Estimation of the adult abundance of nekogigi using close-kin mark-recapture method
○Shin TAGUCHI, Hinano MIZUNO, Kouji NAKAYAMA, Tetsuya AKITA, Yasuyuki HASHIGUCHI, Tomonori OSUGI, Hirotaka MINAMINO, Atsuhiko SUZUKI and Hirohiko TAKESHIMA
- 39 16:25 サクラマス成長とカゲロウセンチュウの寄生数の関係
○小倉 裕平・長谷川 功 (資源研さけます部門)
Relationship between masu salmon growth and numbers of infected nematodes *Salmonema cf. ephemeridarum*
○Yuhei OGURA and Koh HASEGAWA

口頭発表 第2会場 (スカイホール)

9月2日(土)

9:00~10:00

(行動)

- 40☆ 9:00 琵琶湖固有種ニゴロブナによる母田回帰メカニズム:階層的ナビゲーション仮説の検証
○北田 順也 (神戸大院生物)・長野 健生・光田 和季・大久保 卓也 (滋賀県大生物資源)・磯田 能年 (滋賀県水試)・奥田 昇 (神戸大内海域)
Mechanisms for natal homing by *Carassius buergeri grandoculis* endemic to Lake Biwa: testing the Hierarchical Navigation Hypothesis
○Junya KITADA, Kenki NAGANO, Kazuki MITSUDA, Takuya OKUBO, Takane ISODA and Noboru OKUDA
- 41☆ 9:15 タナゴ亜科魚類における求愛・産卵行動の種間比較
○佐藤 萌柚 (岡山理大院理工)・谷口 倫太郎 (岡山大院環境生命)・川瀬 成吾 (琵琶博)・中島 淳 (福岡県保環研)・熊谷 正裕 (土浦の自然を守る会)・齋藤 拓輝 (那珂川町)・武山 智博 (岡山理大生物地球)
Interspecific comparison of courtship and spawning behavior in the subfamily Acheilognathinae
○Moyu SATO, Rintaro TANIGUCHI, Seigo KAWASE, Jun NAKAJIMA, Masahiro KUMAGAI, Hiroki SAITO and Tomohiro TAKEYAMA
- 42☆ 9:30 ニセクロスジギンポの共同捕食:役割分担してスズメダイ科の産卵床を襲撃する
○佐藤 初・坂井 陽一 (広島大院統合生命)・桑村 哲生 (中京大社研)
Social predation in the false cleanerfish: raiding spawning nests of damselfishes by division of roles
○Hajime SATO, Yoichi SAKAI and Tetsuo KUWAMURA
- 43☆ 9:45 自然環境下におけるハゼ類とギンポ類の種内攻撃行動
○Hunter Harter Godfrey・邊見 由美・益田 玲爾 (京大フィールド研)
Intraspecific agonistic behavior of gobiid and blenniid fishes observed in natural conditions
○Godfrey HUNTER HARTER, Yumi HENMI and Reiji MASUDA

休憩 10:00~10:05

9月2日(土)

10:05~11:05

(生態)

- 44☆ 10:05 大隅諸島の河川におけるウナギ属魚類の種組成決定機構：河川環境の不均質性は異種の共存を可能にする
○熊井 勇介・黒木 真理・後藤 暁彦・高井 万葉・山川 卓 (東大院農)
Factors determining the species composition of two anguillids in rivers of the Osumi Islands
○Yusuke KUMAI, Mari KUROKI, Akihiko GOTO, Kazuha TAKAI and Takashi YAMAKAWA
- 45☆ 10:20 鹿児島県久志湾におけるウツボの生活史
○渡邊 実紗 (鹿大農林水産)・小針 統・小玉 将史・久米 元 (鹿大水産)
Life history of kidako moray (*Gymnothorax kidako*) in Kushi Bay, Kagoshima Prefecture
○Misa WATANABE, Toru KOBARI, Masafumi KODAMA and Gen KUME
- 46☆ 10:35 佐渡島の沿岸小河川におけるイワナとヤマメの資源利用
○藤田 陽 (新潟大院)
Resource use of white-spotted char and masu salmon in small coastal streams, Sado island
○Akira FUJITA
- 47☆ 10:50 実験的手法によるデバスズメダイのエネルギー収支の評価
○石川 昂汰・WU Heng・御手洗 哲司 (OIST)・GENIN Amatzia (HUJI)
Empirical energy cost-benefit model for planktivorous reef fish, *Chromis viridis*
○Kota ISHIKAWA, Heng WU, Satoshi MITARAI and Amatzia GENIN

9月2日(土)

14:35~15:35

(生態/卵・仔稚魚)

- 48☆ 14:35 ミトコンドリア DNA 分析に基づく「中央縁辺仮説」が予測するアユ南端個体群の危急性
○Ha Manh Linh (長崎大院)・武島 弘彦 (福井県立大)・Tran Duc Hau (HNUE)・井口 恵一郎 (長崎大院)
Mitochondrial DNA analysis in ayu supports the central-marginal hypothesis, raises an urgent conservation need for the southernmost population
○Linh Manh Ha, Hirohiko TAKESHIMA, Hau Duc TRAN and Keichiro IGUCHI
- 49☆ 14:50 温帯域のクマノミ集団における低温耐性の進化
○吉田 陽香 (九大院農)・平瀬 祥太郎 (東大水実)・小北 智之 (九大院農)
Evolution of cold tolerance in the temperate population of the yellowtail clownfish (*Amphiprion clarkii*)
○Haruka YOSHIDA, Shotaro HIRASE and Tomoyuki KOKITA

- 50☆ 15:05 鹿児島湾におけるイワハダカ(*Benthoosema pterotum*)仔稚魚の食性
 ○加藤 晋作 (鹿大院農林水産)・小針 統・久米 元 (鹿大水)
 Feeding habits of skinnycheek lanternfish (*Benthoosema pterotum*) larvae, metamorphosing larvae, and juveniles in the semi-enclosed Kagoshima Bay, southern Japan
 ○Shinsaku KATO, Toru KOBARI and Gen KUME
- 51☆ 15:20 北部薩南海域におけるマサバ仔魚の成長と摂餌量
 ○大庭 嘉起 (鹿大院農林水産)・小針 統 (鹿大水産)・重村 太一 (株式会社エコー)・塩崎 一弘 (鹿大水産)・一宮 睦雄・小森田 智大 (熊本大環境共生)・久米 元 (鹿大水産)
 Growth and food requirement of chub mackerel *Scomber japonicus* larvae in the northern Satsunan area, southern Japan
 ○Hiroki OBA, Toru KOBARI, Taichi SHIGEMURA, Kazuhiro SHIOZAKI, Mutsuo ICHINOMIYA, Tomohiro KOMORITA and Gen KUME

休憩 15:35~15:40

9月2日(土)

15:40~16:40

(保全)

- 52☆ 15:40 放流されたニホンウナギの残存を環境 DNA 分析で評価する
 ○山下 尚希・畑 啓生 (愛媛大院理工)
 Evaluating the survival of released *Anguilla japonica* using environmental DNA analysis
 ○Naoki YAMASHITA and Hiroki HATA
- 53☆ 15:55 遊漁対象としてのイトウにおける針傷の回復過程：資源利用状況の把握に向けて
 ○原 成月・武内 優真 (北大院環境科学)・中野 信之 (朱鞠内湖漁協)・小泉 逸郎 (北大地球環境)
 Recovery process of fishing hook wounds in Sakhalin taimen as a recreational fishing target: toward understanding of resource utilization status
 ○Natsuki HARA, Yuma TAKEUCHI, Nobuyuki NAKANO and Itsuro KOIZUMI
- 54☆ 16:10 異なる年級群の稚魚間に見出される兄弟姉妹関係に基づくアカメ成魚の個体数推定- CKMR 法の試行
 ○内藤 拓哉・中山 耕至 (京大農)・武島 弘彦 (福井県大海洋生資)・秋田 鉄也 (水産機構資源研)・橋口 康之 (大阪医科薬科大)・小関 右介 (大妻女子大)・高橋 洋 (水大校)
 Estimation of the adult abundance of akame using close-kin mark-recapture method based on juveniles sampled in different years
 ○Takuya NAITO, Kouji NAKAYAMA, Hirohiko TAKESHIMA, Tetsuya AKITA, Yasuyuki HASHIGUCHI, Yusuke KOSEKI and Hiroshi TAKAHASHI

- 55☆ 16:25 千川上水における国内外来種ドンコの定着状況
○田中 志成 (杉並学院高)
Domestic invasive alien species of Donko *Odontobutis obscura* in Senkawajosui
○Yukinari TANAKA

休憩 16:40~16:45

9月2日(土)

16:45~17:30

(生態)

- 56 16:45 イワトコナマズ黄化個体の分布と遺伝性
○松田 直往 (滋賀県庁)・佐々木 賀治 (滋賀県彦根市)
Distribution and heredity of the yellow morphotype in *Silurus lithophilus*
○Nao MATSUDA and Yoshiharu SASAKI
- 57 17:00 RAD-Seq解析を用いたカクレクマノミの琉球列島における集団遺伝構造の解明
○林 希奈 (OIST)・井戸川 直人 (都立大院理)・三浦 さおり・MERCADER Manon・高宮城 大樹・RAVASI Timothy・LAUDET Vincent (OIST)
Population genetic structure of *Amphiprion ocellaris* in the Ryukyu Archipelago using RAD-Seq
○Kina HAYASHI, Naoto IDOGAWA, SAORI MIURA, Manon MERCADER, HIROKI TAKAMIYAGI, Timothy RAVASI and Vincent LAUDET
- 58 17:15 トランスクリプトーム解析を用いたニゴロブナの母田回帰行動の分子生態学的理解
○奥田 昇 (神戸大内海セ)・三品 達平 (理研 RDB)・磯田 能年 (滋賀水試)・小北 智之 (九州大)・橋口 康之 (大阪医科薬科大)・永野 惇 (龍谷大)
A transcriptomic approach to explore natal homing in a migratory *Carassius buergeri grandoculis* endemic to Lake Biwa
○Noboru OKUDA, Tappei MISHINA, Takane ISODA, Tomoyuki KOKITA, Yasuyuki HASHIGUCHI and Atsushi NAGANO

9月3日(日)

9:00~10:00

(行動)

- 59 9:00 矩形スタミナトンネル内を遊泳するスパインチーク・アネモネフィッシュの泳動作と力学的特性の考察
○木村 菜摘・勝又 瑞樹・西野 凌世・福江 高志 (金沢工大)
Relationship between hydrodynamic characteristics and locomotion of Spine-cheeked anemonefish (*Premnas biaculeatus*) in a rectangular stamina tunnel
○Natsumi KIMURA, Mizuki KATSUMATA, Ryosei NISHINO and Takashi FUKUE

- 60 9:15 ホンソメワケベラが鏡像を自己と認知するまでの過程
○十川 俊平・小林 大雅・安房田 智司・幸田 正典（大阪公大院理）
The process of cleaning wrasse to recognize own mirror image as the self
○Shumpei SOGAWA, Taiga KOBAYASHI, Satoshi AWATA and Masanori KOHDA
- 61 9:30 ホンソメワケベラは自己顔認知により鏡像を自分と認識している
○幸田 正典（大阪公大院理）・ブシャリー レドゥアン（ヌーシャテル大）・久保 直樹・安房田 智司・ソエスビー ウィル・川坂 健人・小林 大雅・十川 俊平（大阪公大院理）
Cleaner fish recognize self-image in a mirror as self by self-face recognition
○Masanori KOHDA, Redouan BSHARY, Naoki KUBO, Satoshi AWATA, Will SOWERSBY, Kento KAWASAKA, Taiga KOBAYASHI and Shumpei SOGAWA
- 62 9:45 ニセクロスジギンボはアイスズメダイの卵を食べて沖縄の冬を越す
○桑村 哲生（中京大社研）・佐藤 初・坂井 陽一（広島大院統合生命）
False cleanerfish *Aspidontus taeniatus* overwinter on Okinawa's coral reefs by raiding the eggs of damselfish *Stegastes obreptus* in groups
○Tetsuo KUWAMURA, Hajime SATO and Yoichi SAKAI

休憩 10:00~10:05

9月3日（日）

10:05~11:05

（行動/生態）

- 63 10:05 水槽内を遊泳するアミメハギに見られた上下運動とひれの動作
○西川 怜那・藤 壮寛・福江 高志（金沢工大）・平田 尚也・加藤 雅文（のとじま水族館）
Relationships between up-and-down locomotion and movement of fins in the case of Amimehagi (*Rudaeius ercodes*) in the water tank
○Rena NISHIKAWA, Takehiro FUJI, Takashi FUKUE, Naoya HIRATA and Masafumi KATO
- 64 10:20 志津川湾産クダリボウズギス属 *Gymnapogon* による造巣性甲殻類の巣穴利用
○阿部 拓三・鈴木 将太（南三陸ネイチャーセ）・佐藤 真央（国立科博）・邊見 由美（京大フィールド研）・太齋 彰浩（サスセン）
Utilization of crustacean burrows by the genus *Gymnapogon* in Shizugawa Bay
○Takuzo ABE, Shota SUZUKI, Mao SATO, Yumi HENMI and Akihiro DAZAI
- 65 10:35 五島列島福江島における植食性魚類が海藻に及ぼす影響：植食性魚類は本当に藻場の形成に影響するのか？
○門田 立・野田 勉（水産機構水技研）
Influence of herbivorous fish on seaweeds in Fukue Island, Goto Islands, southwestern Japan: does herbivorous fish really influence development of seaweeds beds?
○Tatsuru KADOTA and Tsutomu NODA

- 66 10:50 沖縄県八重山海域におけるフエダイ属 2 種の摂餌生態
○下瀬 環 (水産機構)
Feeding ecology of two *Lutjanus* snappers around Yaeyama Islands, southern Japan
○Tamaki SHIMOSE

休憩 11:05~11:10

9月3日(日)

11:10~12:10

(生態)

- 67 11:10 胃内容物解析からみた三重県安濃川におけるアカザの食性
塚原 淳之介・○淀 太我・吉岡 基 (三重大院生資)
Stomach contents analysis of *Liobagrus reinii* in the Ano River, Mie Prefecture, Japan
Junnosuke TSUKAHARA, ○Taiga YODO and Motoi YOSHIOKA
- 68 11:25 ビワマスはいったい何を食べたいのか?
○桑原 雅之 (琵琶博)
What exactly does Biwa salmon want to prey?
○Masayuki KUWAHARA
- 69 11:40 仁淀川水系黒川における移入イワナと在来アマゴの餌利用
○東垣 大祐・井上 幹生 (愛媛大院理工)・川口 隼斗・山本 慶太 (愛媛大理)
Food use by introduced white-spotted charr and native red-spotted masu salmon in the Kurokawa River, in Shikoku Island.
○Daisuke TOGAKI, Mikio INOUE, Hayato KAWAGUCHI and Keita YAMAMOTO
- 70 11:55 サケ稚魚の放流はブラウントラウトを肥やすか?
○本多 健太郎・長谷川 功・小倉 裕平・矢野 豊・伴 真俊 (水研機構資源研)
Does massive release of chum salmon fry fatten brown trout?
○Kentaro HONDA, Koh HASEGAWA, Yuhei OGURA, Yutaka YANO and Masatoshi BAN

9月3日(日)

14:35~15:35

(生態)

- 71 14:35 初めて観察されたアオメエソの卵巣の成熟
○石井 輪太郎 (ふくしま海洋科学館)・猿渡 敏郎 (東大大気海洋研)・森 俊彰・山内 信弥 (ふくしま海洋科学館)
First observed maturation of the ovary of *Chlorophthaimus albatrossis*
○Rintaro ISHII, Toshiro SARUWATARI, Toshiaki MORI and Shinya YAMAUCHI

- 72 14:50 東シナ海におけるモヨウカスベの生活史特性
 ○原 康二郎・古満 啓介・山口 敦子（長大院水環）
 Life history characteristics of the sharpnose skate *Okamejei acutispina* in the East China Sea
 ○Kojiro HARA, Keisuke FURUMITSU and Atsuko YAMAGUCHI
- 73 15:05 南太平洋に出現するアナゴ属4種の初期生活史の解明
 ○竹内 綾（近大農）・黒木 真理・MILLER Michael（東大院農）・Pogonoski John（CSIRO）・大竹 二雄・高須賀 明典（東大院農）
 Early life history characteristics of *Conger*leptocephali in the western South Pacific
 ○Aya TAKEUCHI, Mari KUROKI, Michael MILLER, John POGONOSKI, Tsuguo OTAKE and Akinori TAKASUKA
- 74 15:20 小さいハタと大きいハタ：ニジハタとヤイトハタの生活史からハタ類の成長様式をみる
 安藤 風太（琉大理）・○立原 一憲（富士河口湖町）
 Small and large groupers: Considering the growth pattern of groupers from the life histories of rainbow grouper and malabar grouper
 Futa ANDOU and ○Katsunori TACHIHARA

休憩 15:35～15:40

9月3日（日）

15:40～16:40

（生態/卵・仔稚魚）

- 75 15:40 野生のサケ稚魚は成長しながら降河する
 ○大磯 毅晃・下田 和孝・ト部 浩一・小亀 友也（道総研さけます内水試）・齋藤 義郎（道栽培公社）
 Wild salmon fry migrate to sea as growing.
 ○Takeaki OISO, Kazutaka SHIMODA, Hirokazu URABE, Yuya KOGAME and Yoshiro SAITO
- 76 15:55 アユはいつ淀川大堰魚道を通過するのか？
 ○瀬口 雄一・森井 裕・佐藤 大生（建設技研）
 When do Ayu-Fish pass through the fishway in the Yodogawa Ozeki barrage?
 ○Yuichi SEGUCHI, Yutaka MORII and Daiki SATOU
- 77 16:10 琵琶湖の砂・礫・岩質湖岸におけるホンモロコ産着卵の出現と産卵行動の観察
 ○馬淵 浩司・西田 一也（国環研琵琶湖）
 Occurrence of eggs of *Gnathopogon caeruleus* and observation of its spawning behavior on the sandy, gravel, and rocky shores of Lake Biwa, Japan
 ○Kohji MABUCHI and Kazuya NISHIDA

- 78 16:25 小田原市のメダカ・ビオトープにおける改良型浮き魚礁の効果について
○嶋津 雄一郎（神奈川県水産技術センター）・勝呂 尚之（神奈川県水産技術センター相模湾）
Effects of Improved fish aggregating device in Medaka biotope in Odawara city
○Yuichiro SHIMAZU and Naoyuki SUGURO

ポスター発表

ポスター発表初日の9月2日(土)午前中までに指定の場所に貼付し、2日間掲示してください。

奇数番号のポスターのコアタイムは9月2日(土)13:30~14:30です。

偶数番号のポスターのコアタイムは9月3日(日)13:30~14:30です。

☆は優秀発表賞応募発表を、○は演者を示しています。

ポスター発表会場：G-38, G-3A, 3階・4階フロア

- 79☆ 日本産ギンアナゴ *Gnathophis heterognathos* は1種なのか?
○園山 萌香(北大院水産)・田城 文人(北大総合博)・今村 央(北大院水産/総合博)
Is *Gnathophis heterognathos* (Congridae) from Japan composed of a single species?
○Moeka SONOYAMA, Fumihito TASHIRO and Hisashi IMAMURA
- 80 ノコギリエイ科の日本における確かな記録と適用すべき和名および日本国内における生息状況
○小枝 圭太(琉大理)・瀬能 宏(神奈川県博)
Reliable Japanese record of Pristidae with comments on standard Japanese name and current status in Japan
○Keita KOEDA and Hiroshi SENOU
- 81☆ 本州太平洋沿岸から採集されたクジラウオ科の分類学的検討
○犬塚 敦己・高見 宗広(東海大海洋)
Taxonomic review of Flabby whalefishes (Stephanoberyciformes: Cetomimidae) collected from the Pacific coast of Honshu, Japan
○Atsuki INUZUKA and Munehiro TAKAMI
- 82 国内で記録されてきたタケウツボ属魚類の整理および日本初記録の *Strophidon dorsalis* (Seale, 1917) (ウナギ目ウツボ科)
○日比野 友亮(北九自歴博)・出羽 優凧(鹿大院農水)
Reassessment of records of the genus *Strophidon* in Japan with a new record of *Strophidon dorsalis* (Seale, 1917) (Anguilliformes: Muraenidae)
○Yusuke HIBINO and Yuna DEWA
- 83☆ ハナダイ科スミッキハナダイ属魚類の分類学的再検討および尖閣諸島から得られた1未記載種
○野村 玲偉(近大院農)・和田 英敏(東大総研博)・宮崎 佑介(近大院農)
Taxonomic review of the genus *Selenanthias* (Serranidae) with notes of an undescribed species from the Senkaku Islands, southern Japan
○Rei NOMURA, Hidetoshi WADA and Yusuke MIYAZAKI

- 84 遺伝・形態データに基づく日本産ホラアナゴ属魚類の分類
○田城 文人 (北大総合博)・高見 宗広 (東海大海洋)・三澤 遼・成松 庸二 (水産機構資源研)
Classification of the genus *Synaphobranchus* (Anguilliformes; Synaphobranchidae) in Japanese waters based on genetic and morphological data
○Fumihito TASHIRO, Munehiro TAKAMI, Ryo MISAWA and Yoji NARIMATSU
- 85☆ フィリピンパナイ島から得られたホウボウ科 *Lepidotrigla macrobrachium* Fowler, 1938 の 2 例目の記録
○樋口 淳也・河合 俊郎 (北大院水産)・本村 浩之 (鹿大総博)・BABARAN Ricardo P. (UPV)・GOMON Martin F. (NMV)
Lepidotrigla macrobrachium Fowler, 1938 (Triglidae) from Panay Island, Philippines: the second record of the species
○Junya HIGUCHI, Toshio KAWAI, Hiroyuki MOTOMURA, Ricardo P. BABARAN and Martin F. GOMON
- 86 日本初記録のセキトリイワシ科魚類 4 種の記録および各種の分布に関する考察
○千田 哲朗・甲斐 嘉晃 (京大フィールド研)・三澤 遼 (水産機構資源研)・河合 俊郎 (北大院水産)
The first records of the four alepocephalid fishes and a consideration about their distribution
○Tetsuro SENDA, Yoshiaki KAI, Ryo MISAWA and Toshio KAWAI
- 87☆ 西太平洋から確認されたキントキダイ属の 1 未記載種
○橋本 慎太郎 (鹿大院農水)・本村 浩之 (鹿大総博)
An undescribed species of the genus *Priacanthus* (Priacanthidae) from the western Pacific Ocean
○Shintaro HASHIMOTO and Hiroyuki MOTOMURA
- 88 分子系統解析に基づくワニトカゲギス目魚類の系統分類
○宇野 友貴・佐々木 剛 (東農大農)
Phylogenetic classification of Stomiiformes species base on molecular phylogenetic analysis
○Tomoki UNO and Takeshi SASAKI
- 89☆ 日本から東南アジアに分布するマルヒラアジの遺伝的・形態的に異なる 2 型
○吉田 卓史 (鹿大院農水)・本村 浩之 (鹿大総博)
Genetic and morphological differences between two types of *Turrum coeruleopinnatus* from Japan to Southeast Asia
○Takushi YOSHIDA and Hiroyuki MOTOMURA

- 90 調査船 Chakratong Tongyai によってタイ王国プーケット沖のアンダマン海から採集されたハダカイワシ目魚類
小幡 光汰 (北大院水産)・杉山 明日香 (北大水産)・○河合 俊郎 (北大院水産)・田城 文人 (北大総博)・今村 央 (北大院水産)・AUNGTONYA Charatsee・BANCHONGMANEE Surapong (PMBC)
Myctophiforms collected from Andaman Sea, off Phuket, Thailand by R/V Chakratong Tongyai
Kota OBATA, Asuka SUGIYAMA, ○Toshio KAWAI, Fumihito TASHIRO, Hisashi IMAMURA, Charatsee AUNGTONYA and Surapong BANCHONGMANEE
- 91☆ 日本産イラ属 (ベラ科) 3種の形態的・遺伝学的再検討
○久高 健飛 (鹿大水産)・本村 浩之 (鹿大総博)
Taxonomic status of three species of the genus *Choerodon* (Labridae) from Japan
○Kento KUDAKA and Hiroyuki MOTOMURA
- 92 岩手県および沖縄県から得られた日本初記録のヒウチダイ科魚類 *Hoplostethus grandperrini*
○三澤 遼 (水産機構資源研)・高梨 佑真 (高知大理工)・Yo SU (国立中山大)・Chih-Wei CHANG (国家海洋研究院)・甲斐 嘉晃 (京大フィールド研)
First Japanese records of *Hoplostethus grandperrini* (Trachichthyiformes; Trachichthyidae) from Iwate and Okinawa prefectures, Japan
○Ryo MISAWA, Yuma TAKANASHI, Yo SU, Chih-Wei CHANG and Yoshiaki KAI
- 93☆ 北海道羅臼町沖より得られたニシキギンポ科の1未記載属・種
○金井 聖弥 (鹿大院農水)・松崎 浩二・日比野 麻衣 (ふくしま海洋科学館)・本村 浩之 (鹿大総博)
An undescribed genus and species of the family Pholidae from off Rausu, Hokkaido, Japan
○Seiya KANAI, Koji MATSUZAKI, Mai HIBINO and Hiroyuki MOTOMURA
- 94 キンメダマシ *Centroberyx druzhinini* にみられた形態的二型, および九州からの追加記録
○中島田 正希・本村 浩之 (鹿大総博)
Two morphotypes found in *Centroberyx druzhinini* (Berycidae), with a distributional range extension of the species in Kyushu, Japan
○Masaki NAKASHIMADA and Hiroyuki MOTOMURA
- 95☆ 南日本から確認されたセグロヘビギンポ類似種群の2未記載種
○出羽 優風 (鹿大院農水)・本村 浩之 (鹿大総博)
Two undescribed species of the *Enneapterygius tutuilae* species complex (Tripterygiidae) from southern Japan
○Yuna DEWA and Hiroyuki MOTOMURA

- 96 日本と台湾の黒潮流域から得られた標本と写真に基づくオガサワラカサゴの標徴および分布記録の再検討
○和田 英敏 (東大博)・瀬能 宏 (神奈川県博)・手良村 知功 (産総研)・小枝 圭太 (琉大理)・本村 浩之 (鹿大総博)
Review of diagnosis and distribution of *Neosebastes multisquamis* based on specimens and photographs from Kuroshio Current basin in Japan and Taiwan (Neosebastidae)
○Hidetoshi WADA, Hiroshi SENOU, Akinori TERAMURA, Keita KOEDA and Hiroyuki MOTOMURA
- 97☆ カエルウオとニセカエルウオの識別点に関する再検討
○畠中 智康 (近大農)・緒方 悠輝也 (宮大院農工)・村瀬 敦宣 (宮大延岡 F)・宮崎 佑介 (近大農)
Reexamination of external distinctive characters between *Istiblennius enosimae* and *Istiblennius edentulus*
○Tomoyasu HATANAKA, Yukiya OGATA, Atunobu MURASE and Yusuke MIYAZAKI
- 98 インド・太平洋におけるネッタIFサカサゴ属の分子系統解析に基づく本属のフサカサゴ科内における単系統性と種間関係
○CABEBE ROXANNE (鹿大院連農)・望月 健太郎 (自然研)・本村 浩之 (鹿大総博)
Molecular phylogeny of the Indo-Pacific scorpionfish genus *Parascorpaena* reveals monophyly of the genus within the family Scorpanidae and interspecific evolutionary relationships
○ROXANNE CABEBE, Kentaro MOCHIZUKI and Hiroyuki MOTOMURA
- 99☆ タスジコバンハゼとコバンハゼ属の一種 5 の形態学的・遺伝学的比較
○佐藤 智水 (鹿大院農水)・本村 浩之 (鹿大総博)
Morphological and genetic comparisons between *Gobiodon rivulatus* and *Gobiodon* sp. 5
○Masayuki C. SATO and Hiroyuki MOTOMURA
- 100 南西諸島から得られたアゴアマダイ属の 1 未記載種
○藤原 恭司 (科博)・本村 浩之 (鹿大総博)・篠原 現人 (科博)
An undescribed species of *Opistognathus* from the Nansei Islands
○Kyoji FUJIWARA, Hiroyuki MOTOMURA and Gento SHINOHARA
- 101☆ クロホシマンジュウダイの遺伝学的・形態学的再検討：インド洋と西太平洋に異所的に分布する 2 種および西太平洋内にみられる地理的 2 個体群
○有馬 雄太 (鹿大水産)・本村 浩之 (鹿大総博)
Genetic and morphological investigations of *Scatophagus argus* showed that two species from the Indian and western Pacific oceans, respectively, and two geographic populations in the western Pacific Ocean
○Yuta ARIMA and Hiroyuki MOTOMURA

- 102 沖縄島及び石垣島から得られたイトヨリダイ科の2未記載種
○棟方 航平（無所属）・日比野 友亮（北九自歴博）・小林 大純（琉大熱生研）・宮本 圭（沖縄美ら島総研セ）
Two undescribed species of Nemipteridae collected from Okinawa and Ishigaki islands
○Kohei MUNAKATA, Yusuke HIBINO, Hirozumi KOBAYASHI and Kei MIYAMOTO
- 103☆ ハダカイワシ科魚類における頭部発光器の神経支配
○古庄 誠（北大院水産）・今村 央（北大院水産/北大総博）・河合 俊郎（北大院水産）
Innervation of cephalic photophores in lanternfishes (Myctophidae)
○Makoto FURUSHO, Hisashi IMAMURA and Toshio KAWAI
- 104 駿河湾口付近の深海から得られたクサウオ科コンニャクウオ属の1未記載種
○村崎 謙太（日本さかな専門学校）
An undescribed deep-sea snailfish of the genus *Careproctus* from near the mouth of Suruga Bay, Japan
○Kenta MURASAKI
- 105☆ 環境DNA分析を用いた兵庫県千種川水系におけるスイゲンゼニタナゴと国内外来種カゼトゲタナゴの分布の推定
○森内 海渡・谷口 倫太郎・住田 崇成（岡山大院環境生命）・濱田 麻友子（岡山大理臨海）・中田 和義（岡山大院環境生命）
Distribution estimation of the endangered native and domestic invasive bitterling species in the Chikusa River system by environmental DNA analysis
○Kaito MORIUCHI, Rintaro TANIGUCHI, Takanari SUMIDA, Mayuko HAMADA and Kazuyoshi NAKATA
- 106 宮崎県門川湾から得られた日本初記録のハゼ科クモハゼ属魚類 *Bathygobius panayensis*
○緒方 悠輝也（宮大院農工）・斉藤 洪成（宮大院農）・和田 正昭（庵川漁協）・村瀬 敦宣（宮大延岡F）
First Japanese record of a goby species, *Bathygobius panayensis*, from Kadogawa Bay, northern part of Miyazaki Prefecture, Japan
○Yukiya OGATA, Hironari SAITO, Masaaki WADA and Atsunobu MURASE
- 107☆ 静岡県周辺におけるサクラマス種群2亜種の集団分化をMIG-seqにより推定する
○深谷 真央・安田 仁奈（東大農）・川嶋 尚正（静岡県自然保護調査委）・岩槻 幸雄（宮崎大農）
MIG-seq analysis of *Oncorhynchus masou* subspecies complex around Shizuoka Prefecture
○Mahiro FUKATANI, NINA YASUDA, Naomasa KAWASHIMA and Yukio IWATSUKI

- 108 オキナワフグにおける背側の棘突起分布の変異
○園山 貴之 (江ノ水)
Variation of spinule distribution on the dorsum in *Chelonodontops patoca*
○Takayuki SONOYAMA
- 109☆ 琵琶湖西部の小河川群におけるイワナの生息状況
○山崎 琉ノ介 (近大院農)・古出 直也・宅間 聖将 (近大農)・石崎 大介 (滋賀水試)・甲斐 嘉晃 (京大フィールド研)・亀甲 武志 (近大農)
Current status of white-spotted charr in small rivers flowing into the western part of Lake Biwa
○Ryunosuke YAMAZAKI, Naoya KOIDE, Kiyomasa TAKUMA, Daisuke ISHIZAKI, Yoshiaki KAI and Takeshi KIKKO
- 110 自然下でのゴマフグとショウサイフグの2世代目以降の雑種の出現
○高橋 洋・伊藤 結花・菅原 舞人・沖村 未和子 (水大校)・永野 惇 (龍大農)・柿岡 諒 (琉大熱生研)
Occurrence of post-F1 hybrids between *Takifugu stictonotus* and *T. snyderi* under natural conditions
○Hiroshi TAKAHASHI, Yuka ITO, Maito SUGAHARA, Miwako OKIMURA, Atsushi NAGANO J. and Ryo KAKIOKA
- 111☆ 福岡県における汽水性ハゼ科魚類の分布と種多様性に寄与する環境特性
○松島 宏太 (九大院生資環)・小山 彰彦 (九大院農)・乾 隆帝 (福岡工大社環)・中島 淳 (福岡県保環研)・鬼倉 徳雄 (九大院農)
Distribution of estuarine gobies and environmental factors affecting to species diversity in Fukuoka Prefecture
○Kota MATSUSHIMA, Akihiko KOYAMA, Ryutei INUI, Jun NAKAJIMA and Norio ONIKURA
- 112 発光ザメにおけるグアニン型脈絡膜タペータムの分布パターン
○六車 香織 (中部大環教研)・水野 雅玖・矢野 大地・ジョゼ パイティオ・大場 裕一・武井 史郎 (中部大応用生物)
Distribution pattern of guanine-type choroidal tapetum in luminous sharks
○Kaori MUGURUMA, Gaku MIZUNO, Daichi YANO, PAITIO JOSé, Yuichi OBA and Shiro TAKEI
- 113☆ 鹿児島湾奥部の魚類相
○畑 瑛之郎 (鹿大院農水)・本村 浩之 (鹿大総博)
Ichthyofauna of northern Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan
○Eishiro HATA and Hiroyuki MOTOMURA
- 114 テンジクダイ科 *Paxton concilians* における側線系
○佐藤 真央・中江 雅典 (国立科博)
The lateral line system in *Paxton concilians* (Apogonidae)
○Mao SATO and Masanori NAKAE

- 115☆ ゲノムワイド SNP データを用いたミヤコタナゴの遺伝的集団構造の再検討
○高田 喜光 (京大院理)・諸澤 崇裕 (自然研・東京農工大)・田畑 諒一 (琵琶博)・渡辺 勝敏 (京大院理)
The genetic population structure of Miyakotanago, *Pseudorhodeus tanago*, revealed by genome-wide SNP data
○Yoshimitsu TAKADA, Takahiro MOROSAWA, Ryoichi TABATA and Katsutoshi WATANABE
- 116 日本産硬骨魚類の棘条固定装置
○篠原 現人 (国立科博)
Diversity of spine locking apparatus in Japanese fishes
○Gento SHINOHARA
- 117☆ サハリンおよび北海道におけるフクドジョウの遺伝的集団構造 —北海道からサハリンへの逆分散 back dispersal —
○新沼 勇人・小林 建介・竹中 將起・東城 幸治 (信州大・理)
Genetic structures of the Japanese stone loach *Barbatula toni* (Cypriniformes: Nemacheilidae) in Sakhalin and Hokkaido: back dispersal from Hokkaido to Sakhalin
○Hayato NIINUMA, Kensuke KOBAYASHI, Masaki TAKENAKA and Koji TOJO
- 118 深海に生息する魚類の網膜構造に関する研究
○平戸 智也 (東京農大農)
Study on the retinal structure of deep-sea fishes
○Tomoya HIRADO
- 119☆ ゲノムワイド SNP データから推定されたアユモドキ (*Parabotia curtus*) の野生・飼育集団の遺伝的特性
○井戸 啓太 (京大院理)・三品 達平 (理研 BDR)・田畑 諒一 (琵琶博)・岩田 明久 (京大院 AA)・阿部 司 (ラーゴ)・渡辺 勝敏 (京大院理)
Genetic features of wild and captive populations of the endangered loach *Parabotia curtus* estimated from genome-wide SNP data
○Keita IDO, Tappei MISHINA, Ryoichi TABATA, Akihisa IWATA, Tsukasa ABE and Katsutoshi WATANABE
- 120 第二世代 CUBIC 法の応用による極めて透明度の高い魚類への組織透明化法の開発
○武井 史郎・田口 智也・加門 隼希・野呂 凜太郎 (中部大応)・六車 香織 (中部大環教研)・紺野 在 (浜松医大微生物学)・石垣 幸二 (ブルーコーナー)・三宅 裕志 (北里大海洋)・鈴木 香里武 (幼魚水)
Development the method for preparing highly transparent tissue-clearing fish specimens using the second-generation CUBIC method.
○SHIRO TAKEI, Tomoya TAGUCHI, Shunki KAMON, Rintaro NORO, Kaori MUGURUMA, Alu KONNO, Koji ISHIGAKI, Hiroshi MIYAKE and Karibu SUZUKI

- 121☆ ゲノムワイドデータから推定された周伊勢湾域固有種ネコギギの集団形成史
○大貫 溪介（京大院理）・田畑 諒一（琵琶博）・三品 達平（理研 BDR）・西田 睦（琉大）・渡辺 勝敏（京大院理）
Population history of *Pseudobagrus ichikawai*: insights from genome-wide SNP data in the endemic species of the Ise Bay area
○Keisuke ONUKI, Ryoichi TABATA, Tappei MISHINA, Mutsumi NISHIDA and Katsutoshi WATANABE
- 122 長崎県におけるスナヤツメ南方種の再発見とその在来性の検証
○松井 彰子（大阪自然史博）・乾 隆帝（福工大）・深川 元太郎（長崎県食品衛生協会）・中島 淳（福岡県保環研）
Rediscovery of *Lethenteron* sp. S. from Nagasaki Prefecture, Japan and examination of nativeness
○Shoko MATSUI, Ryutei INUI, Gentaro FUKAGAWA and Jun NAKAJIMA
- 123☆ 太平洋沿岸域における両側回遊魚カジカ小卵型 *Cottus reinii* の遺伝的特徴と集団構造
○和田 昇己・河村 功一（三重大院生資）
Genetic characteristics and population structure of the Kazika small-egg type, *Cottus reinii*, in the Pacific coastal zone
○Shoki WADA and Kouichi KAWAMURA
- 124 天竜川に生息するスナヤツメ類の遺伝的特徴
○柳生 将之・宮澤 明日加・北原 佳郎（EAC）
Genetic feature of the eastern brook lamprey *Lethenteron reissneri* complex in Tenryu River
○Masayuki YAGYU, Asuka MIYAZAWA and Yoshiro KITAHARA
- 125☆ 北部薩南海域におけるカタクチイワシ仔魚の出現状況と摂餌量
○城山 宗士（鹿大院農林水産）・小針 統・塩崎 一弘（鹿大水産）・一宮 睦雄・小森田 智大（熊県大）・小玉 将史・久米 元（鹿大水産）
The occurrence and food requirements of Japanese anchovy *Engraulis Japonicus* larvae in the northern Satsunan area.
○Soushi SHIROYAMA, Toru KOBARI, Kazuhiro SHIOZAKI, Mutsuo ICHINOMIYA, Tomohiro KOMORITA, Masafumi KODAMA and Gen KUME
- 126 オヤニラミの国内外来分布域と移入歴
○太下 蓮（無所属）・伊藤 玄（龍谷大生物多様性セ）
Distribution and invasion history of domestic invasive species *Coreoperca kawamebari*.
○Ren OSHITA and Gen ITO

- 127☆ 鹿児島県川内川におけるシラスウナギの食性
○高比良 広樹（鹿大院農林水産）・小針 統・小玉 将史・安樂 和彦・小谷 知也・久米 元（鹿大水産）
Feeding habits of *Anguilla japonica* glass eel in the Sendai River, Kagoshima Prefecture
○Hiroki TAKAHIRA, Toru KOBARI, Masafumi KODAMA, Kazuhiko ANRAKU, Tomonari KOTANI and Gen KUME
- 128 三重県におけるハタ科 Epinephelidae の種多様性
○武藤 滉（(株) 巴川）・笹木 大地（鈴鹿保健所）・木村 清志（三重大）
Species diversity of the percoid family Epinephelidae in Mie Prefecture, central Japan
○Hiroshi MUTO, Daichi SASAKI and Seishi KIMURA
- 129☆ 対馬海峡で採集されたヒラマサ仔稚魚
○前田 有香里・小山 喬・工藤 謙輔（長大院水環）・樋渡 萌・眞角 聡・内田 淳・青島 隆（長大水）・菊池 潔（東大水実）・河邊 玲（長大海セ）・阪倉 良孝（長大院水環）
Sampling study of amberjack (*Seriola aureovittata*) larva in Tsushima strait
○Yukari MAEDA, Takashi KOYAMA, Kensuke KUDOU, Moe HIWATARI, Satoshi MASUMI, Jun UCHIDA, Takashi AOSHIMA, Kiyoshi KIKUCHI, Ryo KAWABE and Yoshitaka SAKAKURA
- 130 茨城県沿岸に出現する魚類
○片山 英里（水産無脊椎動物研究所）・舟橋 正隆・池澤 広美（茨城県自然博物館）
Marine fishes collected from the coast of Ibaraki
○Eri KATAYAMA, Masataka FUNABASHI and Hiromi IKEZAWA
- 131☆ 2022 年 2, 3 月に薩南海域に來遊したモジャコ (*Seriola quinqueradiata*) の成長
○後藤 慎之介（鹿大院農林水産）・久米 元・小玉 将史・中谷 颯人・津田 周平・幅野 明正・牧野 文洋・東 隆文・小針 統（鹿大水産）
Growth of juvenile yellowtail, *Seriola quinqueradiata*, in the Satsunan area, southern Kyushu, Japan in February and March 2022
○Shinnosuke GOTO, Gen KUME, Masafumi KODAMA, Hayato NKATANI, Shuhei TSUDA, Akimasa HABANO, Fumihiko MAKINO, Takafumi AZUMA and Toru KOBARI
- 132 茨城県平磯海岸の魚類相
○外山 太一郎（茨城水振課）・山崎 和哉（茨城水試内水支）・藤又 賢司（旭物産）・丹野 晶博（日立市）・納谷 典明（仙台市）
Ichthyofauna of Hiraiso coast, Ibaraki, Japan
○Taichiro TOYAMA, Kazuya YAMAZAKI, Kenji FUJIMATA, Akihiro TANNO and Noriaki NAYA

- 133☆ イトヨにおける顔入れ替え写真を用いた鏡像自己認知能力の検証
○中野 翔太 (大阪大院理)
Testing a new method for mirror self-recognition in three-spined sticklebacks
○Shota NAKANO
- 134 小笠原諸島から新たに記録された魚類
○斉藤 洪成 (宮崎大院農)・瀬能 宏 (神奈川県博)・村瀬 敦宣 (宮崎大延岡)
Newly recorded fish species from the Ogasawara Islands
○Hironari SAITO, Hiroshi SENOU and Atsunobu MURASE
- 135☆ 家畜化メダカと野生メダカの交雑がF₁個体の学習能と個性へ及ぼす影響
○井口 日永 (弘前大院農生)・上村 啄斗・工藤 咲希・鳥山 菜香・井上 和泉 (弘前大農生)・水野 直樹 (東大水実)・東 信行・曾我部 篤 (弘前大農生)
Effects of hybridization between domesticated and wild medaka on the learning ability and personality of F₁ hybrid
○Hinaga IGUCHI, Takuto KAMIMURA, Saki KUDO, Nanaka TORIYAMA, Izumi INOUE, Naoki MIZUNO, Nobuyuki AZUMA and Atsushi SOGABE
- 136 鹿児島県トカラ列島の無人島, 臥蛇島と小臥蛇島の魚類相
○石原 祥太郎・橋本 慎太郎 (鹿大院農水)・是枝 伶旺・古橋 龍星 (鹿大院連農)・本村 浩之 (鹿大総博)
Ichthyofauna of Gaja and Kogaja islands (Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, Japan)
○Shotaro ISHIHARA, Shintaro HASHIMOTO, Reo KOREEDA, Ryusei FURUHASHI and Hiroyuki MOTOMURA
- 137☆ バイオテレメトリー法によるアカメの行動生態の解明～浦ノ内湾における1年10か月の行動記録～
○三木 慎也 (近大院農)・爲國 甲登 (近大農)・山敷 祐也 (近大院農)・光永 靖 (近大農)
Investigation of the behavioral ecology of Akame by biotelemetry: behavioral records for one year and ten months in Uranouchi Bay
○Shinya MIKI, Kabuto TAMEKUNI, Yuya YAMASHIKI and Yasushi MITSUNAGA
- 138 RNA-seqによる大規模核遺伝子データセットを用いた日本産ドジョウ属魚類の分子系統解析
○橋口 康之 (大阪医薬大)・中島 淳 (福岡県保環研)
Molecular phylogeny of weather loaches (genus *Misgurnus*) in Japan, using a large-scale nuclear gene dataset obtained by RNA-seq
○Yasuyuki HASHIGUCHI and Jun NAKAJIMA
- 139☆ 雌性先熟魚サンカクハゼにはなぜ小型のオスが出現するのか?
○清和 凌河・坂井 陽一 (広島大院統合生命)
Why do the small males appear in the protogynous goby *Fusigobius neophytus*?
○Ryoga SEIWA and Yoichi SAKAI

- 140 ポソ湖において同所的種分化したメダカ属魚類のゲノム分化と表現型分化の遺伝基盤
 ○柿岡 諒（琉大熱生研）・安齋 賢（京大院農）・田中 理映子・佐藤 正祐（東山動植物園）・北野 潤（遺伝研）・木村 亮介（琉大医）・山平 寿智（琉大熱生研）
 Genomic divergence and genetic basis for the phenotypic divergence of sympatric species of *Oryzias* in Lake Poso
 ○RYO KAKIOKA, Satoshi ANSAI, Rieko TANAKA, Masahiro SATO, Jun KITANO, Ryosuke KIMURA and Kazunori YAMAHIRA
- 141☆ アミメハギ雄の卵保護行動発現を引き起こす社会生態要因
 ○武藤 響子・貞苺 拳士郎（九大院農）・東出 幸真（のと海洋ふれあいセ）・小北 智之（九大院農）
 A socio-ecological determinant underlying expression of male parental care in the filefish *Rudarius ercodes*
 ○Kyoko MUTO, Kenshiro SADAKARI, Yukimasa HIGASHIDE and Tomoyuki KOKITA
- 142 富山県におけるサクラマス個体群の遺伝的多様性と遺伝的構造
 ○北西 滋（大分大理工）・野村 幸司・田子 泰彦（富山水研）・山本 俊昭（日獣大）
 Genetic diversity and structure of masu salmon (*Oncorhynchus masou*) populations in Toyama Prefecture
 ○Shigeru KITANISHI, Koji NOMURA, Yasuhiko TAGO and Toshiaki YAMAMOTO
- 143☆ 三重県鈴鹿川水系におけるカマツカ類2種の生息状況
 ○久保 敦暉・淀 太我・河村 功一・吉岡 基（三重大院生資）
 Distribution pattern and abundance of two species of pike gudgeon *Pseudogobio esocinus* and *P. agathonectris* in the Suzuka River system, Mie Prefecture, Japan
 ○Atsuki KUBO, Taiga YODO, Kouichi KAWAMURA and Motoi YOSHIOKA
- 144 大阪湾におけるメバル複合種群仔魚の出現状況
 ○木村 祐貴・大美 博昭（大阪環農水研）
 Distribution of *Sebastes inermis* species complex larvae in Osaka Bay
 ○Yuki KIMURA and Hiroaki OHMI
- 145☆ オイカワにおける個体レベルでの食性と腸長の関係
 ○安藤 大輝・淀 太我・吉岡 基（三重大院生資）
 Relationship between feeding habits and gut length at the individual-level in *Opsariichthys platypus*
 ○Hiroki ANDO, Taiga YODO and Motoi YOSHIOKA

- 146 DNA バーコーディングを用いた仔魚の同定と記載－南大洋のハダカイワシ科魚類について
馬淵 瑛子・青木 輪・立花 愛子 (海洋大)・○茂木 正人 (海洋大・極地研)
Larval fish identification using DNA barcoding and morphological descriptions for the Southern Ocean myctophids
Akiko MABUCHI, Rin AOKI, Aiko TACHIBANA and ○Masato MOTEKI
- 147☆ ホンモロコの琵琶湖沿岸における産卵場所の選択性
○香田 万里・角野 祐太・亀甲 武志 (近大農)・石崎 大介 (滋賀水試)・甲斐 嘉晃 (京大フィールド研)
Spawning habitat selectivity of Honnmoroko, *Gnathopogon caerulescens*, in Lake Biwa shoreline
○Banri KODA, Yuta KADONO, Takeshi KIKKO, Daisuke ISIZAKI and Yoshiaki KAI
- 148 ナメダンゴ (ダンゴウオ科) の個体発生と性的二型
○松崎 浩二・森 俊彰 (ふくしま海洋科学館)・甲斐 嘉晃 (京大フィールド研)
Ontogenetic metamorphosis and sexual dimorphism in lumpsucker, *Eumicrotremus taranetzi*
○Koji MATSUZAKI, Toshiaki MORI and Yoshiaki KAI
- 149☆ 福井県嶺南地域で同所的に共存するドジョウ属魚類2種の繁殖期と繁殖場
○八嶋 勇氣・藤川 凌希・藤田 衛・北川 忠生 (近大院農)
Reproductive season and habitat of coexisting two *Misgurnus* loach species in Reinan District, Fukui Prefecture, Japan
○Yuki YASHIMA, Ryoki FUJIKAWA, Mamoru FUJITA and Tadao KITAGAWA
- 150 北海道太平洋沿岸で採集されたマツカワ天然仔魚
○坂上 嶺 (道栽培水試)・田城 文人 (北大総合博)
Wild metamorphosed larvae of *Verasper moseri*, collected from the Pacific Coast of Hokkaido
○Rei SAKANOUÉ and Fumihito TASHIRO
- 151☆ オオガタスジシマドジョウ陸封集団の季節ごとの個体密度と繁殖期
○和田 一步・八嶋 勇氣・北川 忠生 (近大院農)
Seasonal population density and reproductive season of the *Cobitis magnostriata* landlocked populations
○Kazuho WADA, Yuki YASHIMA and Tadao KITAGAWA
- 152 イワナの稚魚の着底行動は流下による空間的選別の産物か？水路実験による検証
○山田 寛之 (愛大院理)・和田 哲 (北大院水産)
Is the station-holding behavior of the juvenile white-spotted char evolved as a product of spatial sorting due to downstream dispersal? Examination by the channel experiments
○Hiroyuki YAMADA and Satoshi WADA

- 153☆ 標識再捕法によるオンガスジシマドジョウの生態に関する知見
○永江 葉奈・小山 彰彦・鬼倉 徳雄（九大院農）
Ecological knowledge of *Cobitis striata fuchigamii* by mark-recapture surveys
○Kanna NAGAE, Akihiko KOYAMA and Norio ONIKURA
- 154 特定外来生物カダヤシの効果的な捕獲方法にむけた行動特性の把握
○奥田 理紗・北川 忠生（近大院農）
Examination of the behavioral characteristics of mosquitofish for effective trapping methods
○Risa OKUDA and Tadao KITAGAWA
- 155☆ 利根川河口域におけるチャネルキャットフィッシュの出現特性と摂餌生態
○高沢 剛希（茨城大水圏 FS）・萩原 富司（GEF）・加納 光樹（茨城大水圏 FS）
Occurrence patterns and feeding habits of channel catfish in Tone River estuary, eastern Japan
○Gouki TAKAZAWA, Tomiji HAGIWARA and Kouki KANOU
- 156 ミナミメダカの雄は1日19回配偶できるが、精子枯渇と受精率の低下が起こる
○近藤 湧生・幸田 正典・安房田 智司（大阪公大院理）
Male medaka can mate 19 times a day, but sperm depletion and reduced fertilization rate occur
○Yuki KONDO, Masanori KOHDA and Satoshi AWATA
- 157☆ 琵琶湖南湖および瀬田川におけるチャネルキャットフィッシュの摂餌生態
○高作 圭汰（近大院農）・花木 基子・加澤 渚（近大農）・上田 健太（近大院農）・石崎 大介（滋賀水試）・光永 靖・小林 徹・亀甲 武志（近大農）
Feeding ecology of *Ictalurus punctatus* in southern Lake Biwa and the Seta River
○Keita TAKASAKU, Motoko HANAKI, Nagisa KAZAWA, Kenta UEDA, Daishuke ISHIZAKI, Yasushi MITSUNAGA, Toru KOBAYASHI and Takeshi KIKKO
- 158 南米産カワスズメ科魚類ディスカス *Symphysodon aequifasciatus* における表情
○佐藤 駿（京大白眉セ）・幸田 正典（大阪公大院理）・杳掛 展之（総研大統進セ）
Facial expression in neo-tropic cichlid *Symphysodon aequifasciatus*
○Shun SATOH, Masanori KOHDA and Nobuyuki KUTSUKAKE
- 159☆ 余呉湖におけるワカサギの産卵遡上時期の早期化
○成田 一平・角田 恭平（近大院農）・石崎 大介（滋賀水試）・甲斐 嘉晃（京大フィールド研）・亀甲 武志（近大農）
Earlier spawning migration of Wakasagi, *Hypomesus nipponensis* in inlets to Lake Yogo
○Ippei NARITA, Kyohei KAKUTA, Daishuke ISHIZAKI, Yoshiaki KAI and Takeshi KIKKO

- 160 脳における神経活動と遺伝子発現情報からロウソクギンポの全卵食を制御する神経基盤を探索する
○福田 和也 (北里大海洋)・中山 友哉 (名大院生命農)・山田 和秀・阿見彌 典子 (北里大海洋)・竹垣 毅 (長大院水環)
Exploring the neural mechanisms underlying infanticide in *Rhabdoblennius nitidus*, based on neuronal activity and gene expression in the brain.
○Kazuya FUKUDA, Tomoya NAKAYAMA, Kazuhide YAMADA, Noriko AMIYA and Takeshi TAKEGAKI
- 161☆ 小河川から余呉湖へのワカサギ孵化仔魚の流下の日周性
○角田 恭平・成田 一平 (近大院農)・石崎 大介 (滋賀水試)・甲斐 嘉晃 (京大フィールド研)・亀甲 武志 (近大農)
Diel patterns of larval drift of wakasagi *Hypomesus nipponensis*, from a small river to Lake Yogo
○Kyohei KAKUTA, Ipppei NARITA, Daisuke ISHIZAKI, Yoshiaki KAI and Takeshi KIKKO
- 162 宮崎県広渡川水系におけるウナギ属2種の流程分布と生息地利用
○松重 一輝・安武 由矢 (九大院農)・日比野 友亮 (北九自歴博)・望岡 典隆 (九大院農)
Riverine distribution and habitat use of two anguillid species in Hiroto River system of Miyazaki Prefecture
○Kazuki MATSUSHIGE, Yoshiya YASUTAKE, Yusuke HIBINO and Noritaka MOCHIOKA
- 163☆ 奄美大島役勝川におけるリュウキュウアユの食性と付着藻類の現存量及び種組成
○井上 賢太郎・仲 真悠 (鹿大水産)・赤木 功 (鹿大農)・小針 統・小玉 将史・久米 元 (鹿大水産)
Diet of Ryukyu-ayu *Plecoglossus altivelis ryukyuensis* in the Yakugachi River, Amami-Oshima Island
○Kentaro INOUE, Mayu NAKA, Isao AKAGI, Toru KOBARI, Masafumi KODAMA and Gen KUME
- 164 カワバタモロコの生殖年周期
○古屋 康則・森下 凌太郎 (岐阜大教育生物)・伊藤 玄 (龍谷大生物多様性セ)
Annual reproductive cycle in *Hemigrammocypripis rasborella* (Cyprinidae)
○Yasunori KOYA, Ryotaro MORISHITA and Gen ITO
- 165☆ 琵琶湖流入河川におけるイワナ稚魚の下流への分散
○時枝 崇一郎・宅間 聖将・古出 直也 (近大農)・山崎 琉ノ介 (近大院農)・亀甲 武志 (近大農)
Downward dispersion of young-of-the-year white-spotted charr *Salvelinus leucomaenis* in a small headwater tributary of Lake Biwa.
○Soichiro TOKIEDA, Kiyomasa TAKUMA, Naoya KOIDE, Ryunosuke YAMAZAKI and Takeshi KIKKO

- 166 イサザ *Gymnogobius isaza* の繁殖期間における雄に偏った死亡率
 ○竹中 剛志・松井 謙弥・前 圭士郎・團 秀太・時枝 崇一朗・花木 基子 (近大農)・石崎 大介 (滋賀水試)・甲斐 嘉晃 (京大フィールド研)・亀甲 武志 (近大農)
 Biased mortality in males of isaza *Gymnogobius isaza* during their spawning period
 ○Tsuyoshi TAKENAKA, Kenya MATSUI, Keishiro MAE, Syuta DAN, Souichiro TOKIEDA, Motoko HANAKI, Daisuke ISHIZAKI, Yoshiaki KAI and Takeshi KIKKO
- 167☆ 鹿児島湾に生息するアカオビハナダイの年齢と成長
 ○松本 悠・森年エマ 日向子 (鹿大院農林水産)・松岡 翠 (鹿大水産)・出羽 慎一 (海案内)・須之部 友基 (海洋大館山)・久米 元 (鹿大水産)
 Age and growth of protogynous *Pseudanthias rubrizonatus* in Kagoshima Bay
 ○Haruka MATSUMOTO, Hinako MORITOSHI EMMA, Midori MATSUOKA, Shinichi DEWA, Tomoki SUNOBE and Gen KUME
- 168 河川遡上サケに見られる“ギラ”を追って
 ○水本 寛基 (水産資源研究所)
 "Gira": a shiny matured chum salmon in the river
 ○Hiroki MIZUMOTO
- 169☆ 鹿児島県甕島周辺海域におけるアカハタの繁殖生態
 ○原田 善広 (鹿大院農林水産)・小針 統・小玉 将史・久米 元 (鹿大水産)
 Reproductive biology of *Ephinephelus fasciatus* around Koshikijima Islands, Kagoshima Prefecture
 ○Yoshihiro HARADA, Toru KOBARI, Masafumi KODAMA and Gen KUME
- 170 放流されたアマゴの河川での残存率に及ぼすスモルト化の影響
 ○幡野 真隆・菅原 和宏・吉岡 剛 (滋賀水試)・亀甲 武志 (近大農)
 The influence of smoltification on the survival rate of released Amago trout *Oncorhynchus masou ishikawae* in river systems
 ○Masataka HATANO, Kazuhiro SUGAHARA, Tsuyoshi YOSHIOKA and Takeshi KIKKO
- 171☆ 標識再捕獲法から推定されるカジカ大卵型の移動と成長
 ○前 圭士郎 (近大院農)・宇野 航太朗・瀬川 木雪・亀甲 武志 (近大農)
 Movement and growth of *Cottus pollux* large-egg type by mark-and-recapture
 ○Keishiro MAE, Kotaro UNO, Koyuki SEGAWA and Takeshi KIKKO
- 172 魚類自然史標本から深海の宿主-寄生者関係を探る：ソコダラ科魚類に寄生するウオノエ科等脚類
 ○川西 亮太 (北教大釧路)
 Revealing host-parasite relationships in the deep sea by using museum host collections: A case study of cymothoid isopods parasitic on macrourid fishes
 ○Ryota KAWANISHI

- 173☆ 生息水深と卵サイズから、クサウオ科魚類における深海への適応プロセスを探る
○山野 慎太郎 (北里大海洋)・森 俊彰 (ふくしま海洋科学館)・佐藤 駿 (京大・白眉セ)・松崎 浩二 (ふくしま海洋科学館)・千葉 洋明・福田 和也 (北里大海洋)
Exploring the process of adaptive evolution to deep sea based on habitat depth and egg size in Liparidae
○Shintaro YAMANO, Toshiaki MORI, Shun SATOH, Koji MATSUZAKI, Hiroaki CHIBA and Kazuya FUKUDA
- 174 トウゴロウイワシの色素胞塊における光反射点滅現象
○岩坂 正和 (広大ナノデバ)
Dynamic light reflection in chromatophores of silversides
○Masakazu IWASAKA
- 175☆ 両側回遊性ヨシノボリ類の水田回遊の可能性
○水谷 拓斗・井上 幹生 (愛媛大院理工)
Rice paddy systems may be used for landlocked migration by amphidromous gobies
○Takuto MIZUTANI and Mikio INOUE
- 176 九州北部海域の藻場に出現するメバル複合種群稚魚の胸鰭軟条数とその産出時期の比較
○安武 由矢 (日海生研)・望岡 典隆 (九大院農)
Comparison of the number of pectoral-fin ray and their timing of offspring in juvenile *Sebastes inermis* species complex in seaweed beds in the northern Kyushu, Japan
○Yoshiya YASUTAKE and Noritaka MOCHIOKA
- 177☆ 営巣しているカワヨシノボリの雄は雌を巣まで化学的に誘引するか？
○長屋 美希 (岐阜大連農)・中西 陽人 (岐阜大院教育)・舟崎 大翔・古屋 康則 (岐阜大教育)
Do nesting male *Rhinogobius flumineus* chemically attract females to nests?
○Miki NAGAYA, Haruto NAKANISHI, Hiroto FUNAZAKI and Yasunori KOYA
- 178 紀伊半島の河川におけるヒラスズキの出現様式と食性
○國島 大河 (和歌山自然博)・豊田 将大 (和歌山県)
Occurrence patterns and feeding habits of *Lateolabrax latus* in the river of Kii Peninsular
○Taiga KUNISHIMA and Masahiro TOYOTA
- 179☆ 環境 DNA 調査から明らかにされたモツゴ外来系統の侵入状況
○小粥 淳史 (京大院理)・辻 冨月 (京大院情報)・渡辺 勝敏 (京大院理)
Invasion of non-native populations of the topmouth gudgeon *Pseudorasbora parva* revealed by eDNA survey
○Atsushi KOGAYU, Satsuki TSUJI and Katsutoshi WATANABE

- 180 福島県沖に出現するアオビクニン *Careproctus pellucidus* の成熟過程と成長にともなう発育形態
○森 俊彰 (ふくしま海洋科学館)・松本 紗季 (北里大海洋)・岩崎 高資 (福島県資源研)・安倍 裕喜 (福島県水産課)・山内 信弥 (ふくしま海洋科学館)・吉永 龍起 (北里大海洋)
Sexual maturation and larval development of *Careproctus pellucidus* at off coast of Fukushima
○Toshiaki MORI, Saki MATSUMOTO, Takashi IWASAKI, Hiroki ABE, Shinya YAMAUCHI and Tatsuki YOSHINAGA
- 181☆ 飼育環境下のミナミタガイにニッポンバラタナゴが及ぼす影響
○中西 亮太・藤田 衛・八嶋 勇気・奥田 覚子・北川 忠生 (近大院農)
Effect of betterlings on freshwater mussels in captivity environment
○Ryota NAKANISHI, Mamoru FUJITA, Yuki YASHIMA, Satoko OKUDA and Tadao KITAGAWA
- 182 琵琶湖沿岸で確認されたビワヨシノボリ *Rhinogobius biwaensis* 雄の雌擬態
○松井 謙弥 (近大院農)・寺田 麗香 (近大農)・前 圭士郎・山崎 琉ノ介 (近大院農)・石崎 大介 (滋賀水試)・甲斐 嘉晃 (京大フィールド研)・小林 徹・亀甲 武志 (近大農)
Female mimicry of biwayosinobori *Rhinogobius biwaensis*, Lake Biwa
○Kenya MATSUI, Reika TERADA, Keishiro MAE, Ryunosuke YAMAZAKI, Daisuke ISHIZAKI, Yoshiaki KAI, Toru KOBAYASHI and Takeshi KIKKO
- 183☆ 自然保護区域に生息するゴギと移入されたアマゴの流程に沿った分布
○佐々木 悠人 (近大院農)・亀甲 武志・鳥澤 眞介・光永 靖 (近大農)
Longitudinal distribution patterns of Gogi charr near the southern limit of the distribution and the introduced red spot masu salmon in Saijo River, Japan
○Yuto SASAKI, Takeshi KIKKO, Shinsuke TORISAWA and Yasushi MITSUNAGA
- 184 市民参加型モニタリング「一日漁師体験」に基づく霞ヶ浦の魚類相の変化
○諸澤 崇裕 (東京農工大)・萩原 富司・熊谷 正裕・荒井 聡・奥井 登美子・岩崎 淳子 (土浦の自然を守る会)・三浦 一輝 (道総研)
Changes in the fish fauna of Lake Kasumigaura based on the citizen participatory monitoring "one-day fisherman's experience"
○Takahiro MOROSAWA, Tomiji HAGIWARA, Masahiro KUMAGAI, Satoshi ARAI, Tomiko OKUI, Jyunko IWASAKI and Kazuki MIURA
- 185☆ 霞ヶ浦のヨシ帯の魚類群集構造に囲い型消波施設が及ぼす影響
○龍頭 一生・浅野 泰輝・碓井 星二・金子 誠也・加納 光樹 (茨城大院理)
Influence of the wave dissipating fence on fish assemblage structures in reed stand areas in Lake Kasumigaura, eastern Japan
○Issei RYUTO, Taiki ASANO, Seiji USUI, Seiya KANEKO and Kouki KANOU

- 186 青森県又八沼でのモツゴ類の遺伝分析と外部形態による同定結果の比較
○田畑 諒一（琵琶博）・福家 悠介（遺伝研）・佐原 雄二（弘前医療福祉大）・高谷 悟（青森中央高）
Comparison of genetics and morphological identification of *Pseudorasbora* spp. in Matahachi-Numa
○Ryoichi TABATA, Yusuke FUKUE, Yuji SAWARA and Satoru TAKAYA
- 187☆ 栃木県内で採集されたヤリタナゴ *Tanakia lanceolata* の遺伝的特徴
○谷口 倫太郎（岡山大院環境生命）・新田 理人（水研機構水技研）・太田 啓佑（足立区）・石川 孝典（日大生物資源）・猿田 朝久（自然研）・齋藤 拓輝（那珂川町）・佐藤 司郎（野ばら幼稚園）
Genetic characteristic of *Tanakia lanceolata* collected in Tochigi Prefecture
○Rintaro TANIGUCHI, Masato NITTA, Keisuke OTA, Takanori ISHIKAWA, Tomohisa SARUTA, Hiroki SAITO and Shiro SATO
- 188 筑後川水系産セボシタビラの飼育下での繁殖に関する一知見
○鬼倉 徳雄・永江 葉奈・中塚 宇宙（九大院農）・中島 淳（福岡県保環研）・林 博徳（九大院工）・鹿野 雄一（一社 QOU）
A note on artificial reproduction of *Acheilognathus tabira nakamurae* from the Chikugo river system
○Norio ONIKURA, Kanna NAGAE, Hiroshi NAKATSUKA, JUN NAKAJIMA, Hironori HAYASHI and Yuichi KANO
- 189 岡山県旭川水系宇甘川におけるナガレホトケドジョウの生息環境
○谷 憲一（岡山理大院理工）・武山 智博（岡山理生物地球）
Habitat of *Lefua torrentis* in the Ukai River, Asahikawa River system, Okayama
○Kenichi TANI and Tomohiro TAKEYAMA
- 190 琵琶湖流出河川瀬田川におけるチャンネルキャットフィッシュの増加とギギの減少
○石崎 大介・白杵 崇広・三枝 仁（滋賀水試）・亀甲 武志（近大院農）
Decrease of *Tachysurus nudiceps* and increase of *Ictalurus punctatus* in Seta River, outlet of Lake Biwa
○Daisuke ISHIZAKI, Takahiro USUKI, Jin SAEGUSA and Takeshi KIKKO
- 191 放流に替わる環境教育手段の模索～市民団体「山の手ヤマベ里親の会」と地元有識者らの取り組み
○長谷川 功（資源研さけます部門）・二本柳 健司（山の手ヤマベ里親の会）・渡辺 恵三（道技コン）・中村 慎吾（豊平川さけ科学館）・佐橋 玄記（資源研さけます部門）・飴谷 尚人（道技コン）
Seeking a more effective way than fish stocking to environmental education
○Koh HASEGAWA, Kenji NIHONYANAGI, Keizo WATANABE, Shingo NAKAMURA, Genki SAHASHI and Naoto AMETANI
- 192 長崎県壱岐島における希少淡水魚類の危機的な分布状況
○高久 宏佑・入口 友香（自然研）
Critical situation of endangered freshwater fishes in Iki Island, Nagasaki Prefecture.
○Kosuke TAKAKU and Yuka IGUCHI

- 193 SNS から発見された群馬県太田市におけるヤリタナゴの国内外来集団
○古旗 峻一 ((株)OC)・谷口 倫太郎 (岡山大院環境生命)・内田 大貴 ((株)環境
指標生物)・久保田 潤一 ((特非)NPO birth)・村橋 卓也 (東日本旅客鉄道(株))・
高野 季樹 (筑波大院生物)
Domestic alien colonies of *Tanakia lanceolata* in Ota City, Gunma Prefecture,
Japan, discovered by SNS.
○Ryoichi FURUHATA, Rintaro TANIGUCHI, Daiki UCHIDA, Junichi KUBOTA,
Takuya MURAHASHI and Toshiki TAKANO
- 194 河川における環境 DNA MiFish 分析にみられるノイズ考察
○村岡 敬子・菅野 一輝・篠原 隆佑・中島 颯大・釣 健司・崎谷 和貴 (国研土研)
Consideration of noise in eDNA MiFish analysis in rivers.
○Keiko MURAOKA, Kazuki KANNO, Ryusuke SHINOHARA, Souta NAKAJIMA,
Kenji TSURI and Kazutaka SAKIYA
- 195 研究対象魚の福利を考えるとはどういうことか
○井口 恵一郎 (長大院水環)
What is the welfare of the fish under study?
○Keiichiro IGUCHI

高校生研究発表プログラム

9月3日(日)10時までに指定の場所にポスターを貼付してください。
ポスターのコアタイムは9月3日(日)13:30~14:30です。○は演者を示しています。

- H01 ホトケドジョウの幼魚期における浮遊期について
○林 龍星 (岐阜県立岐阜高等学校)
○Ryusei HAYASHI
- H02 ジャブジャブ革命
○塚原 悠詞・神田 頼沙・岡部 幸雄 (愛知県立一宮高校)
○Yuushi TSUKAHARA, Raisa KANDA and Yukio OKABE
- H03 テナガエビの嗅覚と味覚に対する反応および動体検知反応行動
○山川 美咲・河合 陽祐 (浜松学芸高校科学創造)
○Misaki YAMAKAWA and Yousuke KAWAI
- H04 雌雄による嗅覚、視覚刺激の違いを用いたカダヤシ捕獲装置の開発
○河合 陽祐・高田 誠真・相曾 雄斗・長谷川 天哉・山村 悠真・村松 竜成 (浜松学芸高サイエンス)
○Yousuke KAWAI, Seima TAKATA, Yuto AISO, Takaya HASEGAWA, Haruma YAMAMURA and Ryusei MURAMATSU
- H05 ニッポンバラタナゴの保護における環境DNA法の活用
○津田 歩風・溝畑 鈴音 (高津高校)
○Honoka TSUDA and Reon MIZOHATA
- H06 近縁種アブラハヤとの共存によるタカハヤの形質置換
○平井 和真・数見 青空・中嶋 亮斗・町井 秀斗・大塚 丈雅 (富田林高)
○Kazuma HIRAI, Sora KAZUMI, Ryouto NAKAJIMA, Shuuto MACHII and Takemasa OTSUKA
- H07 大和川水系石川のオオシマドジョウの採餌生態
○大塚 丈雅・中嶋 亮斗 (富田林高)
○Takemasa OTSUKA and Ryouto NAKAJIMA
- H08 メダカにおける黒色素胞の形成および受精卵の発育と光条件
○隅田 莉央・石崎 朱・大坪 千咲・吉田 美葉子・繁戸 克彦 (神戸高校総理)
○RIO SUMIDA, AKANE ISHIZAKI, TISAKI OOTUBO, MIYOKO YOSHIDA and KATSUHIKO SHIGETO
- H09 日本近海のアカカマスとヤマトカマスに寄生するChauhaneidae科単生類の分類学的検討
○山本 葉奈・林 笑有・岡田 真悠子 (白陵高校)
○Kanna YAMAMOTO, Syou HAYASHI and Mayuko OKADA

- H10 救え！カワヤツメ — アンモシーテス幼生の飼育（続報） —
○三木 太貴・砂田 大斗・豊島 煌太（愛媛県立宇和島水産高）
○Taiki MIKI, Hiroto SUNADA and Kouta TOYOSHIMA
- H11 水高コズナ・プロジェクト -シロアマダイ人工授精の試み-
○豊島 煌太・砂田 大斗・三木 太貴（愛媛県立宇和島水産高）
○Kouta TOYOSHIMA, Hiroto SUNADA and Taiki MIKI
- H12 長崎県産カワヨシノボリの表現型と生殖的隔離の可能性について
○太田 翔・市丸 智規（大村高校）
○Kaoru OHTA and Tomonori ICHIMARU

2023 年度日本魚類学会年会シンポジウム

名古屋議定書の基礎と近年の動向を魚類学研究の視点で考える

Basic concept and recent trends of the Nagoya Protocol on Access and Benefit-Sharing (ABS)
from the perspective of ichthyological research

日時：9月4日（月）9:30～12:50

場所：A-21 教室

魚類学会員のみご参加いただけます。

コンビーナー：日本魚類学会 ABS 対策チーム

【シンポジウムの趣旨】

生物多様性条約では「遺伝資源の取得の機会、およびその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分」(ABS)を目的のひとつとしており、その実効性を高めるための名古屋議定書が2014年10月12日に発効した。日本も2017年8月20日から名古屋議定書の締約国となり、国内措置である「遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する指針 (ABS 指針)」が施行されている。海外の遺伝資源を用いる研究において、このABSに対応するために研究の遅延や忌避が生じているが、遺伝資源提供国の法令を順守することは避けて通れない。

日本魚類学会では、2015年度年会にて「生物多様性と名古屋議定書に係るABS対策フォーラム 法的確実性をもって遺伝資源を利用するために今なにをすべきか？」を開催し会員への周知・啓発を行った。それから8年が経過して新しく入会した会員の割合も増加している。また、ABSに関心がある会員とそうでない会員の意識・知識の差が拡大している状況にある。

そこで、本シンポジウムではABSの基礎からデジタル配列情報や日本の提供国としての立場に関する議論などの近年の動向の紹介や、実際に提供国とPIC（事前の情報による同意）を取得した会員の体験談などの情報を提供し、会員がABSと適切に向き合い、不注意等によって不利益を被らないようにするための議論の場を提供したい。

【プログラム】

1. 9:30～9:35 開催趣旨説明
2. 9:35～11:00 海外からの研究用生物試料を利用する場合の注意点—名古屋議定書とABSを中心に—
鈴木睦昭（国立遺伝研 ABS 学術対策チーム）

11:00～11:10 休憩

3. 11:10～11:25 日本魚類学会 ABS 対策チームのこれまでの活動および学会員へのお願い
中江雅典・本村浩之・昆 健志・千葉 悟（日本魚類学会 ABS 対策チーム）
4. 11:25～11:40 フィリピンのパラワン州における ABS 関連手続きの実例
前田 健（OIST）
5. 11:40～11:55 フィリピン パナイ島における魚類多様性調査を目的とした ABS 関連手続きの実例
武藤望生（北里大海洋生命）
6. 11:55～12:10 韓国でのハゼ類調査およびマレーシアでの魚類相調査における ABS 関連手続きの実例
中江雅典（国立科博）
7. 12:10～12:25 IR への投稿原稿における ABS 問題
小北智之（日本魚類学会編集委員長）
8. 12:25～12:50 パネルディスカッション「ABS の順守を前提として魚類学研究をどう進めるか」・全体質疑

シーボルト魚類標本と江戸参府紀行

The Siebold's fish collection and his diary of the court journey to Edo

日時：9月4日（月）10:00～16:00

場所：スカイホール（4階）

コンビーナー：藤田朝彦（中部地方環境事務所）・川瀬成吾（琵琶湖博）・細谷和海（近畿大）

【シンポジウムの趣旨】

フィリップ・フランツ・バルタザール・フォン・シーボルト（Philipp Franz Balthasar von Siebold, 1796–1866）の名前と偉業は、魚類研究者であれば耳にしたことがあるだろう。彼はオランダから江戸時代末期に医師として派遣され、長崎に鳴滝塾を開設し、鎖国で閉ざされていた日本に西洋の優れた医療技術を数多くもたらしたことでよく知られている。また、日本の文化や自然に強い関心があることから、オランダ政府から学術調査の命を受け、魚類標本を含めありとあらゆるものをオランダに持ち帰っていることが『江戸参府紀行』において克明に記録されている。当時彼はまだ30才の若者であり、オランダに帰国後、『日本動物誌』出版を成し遂げた偉業は驚きである。シーボルトが収集した動物標本資料の大半は、現在、ライデンにある生物多様性センター・ナチュラリス（旧オランダ国立自然史博物館）に厳重に保管されており、これらは日本人にとっていずれも貴重な知的財産である。

これまでのシーボルト研究は、主にシーボルト自身にまつわる文化・歴史的分野と、彼が収集した生物種のタイプ標本を照合する分類学的分野にエネルギーが注がれてきた。また、シーボルトがオランダに帰った後、日本は明治維新を皮切りに、近代化へと突き進んで行った。その代償として日本の自然環境は著しく損なわれ、日本らしさが褪せていった。その傾向は小川や池といった身近な水辺において顕著である。シーボルト淡水魚コレクションは、約200年前の長崎から江戸に向けた将軍に拝謁するために上京した「江戸参府」の道程において収集された標本で構成されており、当時の水辺環境を現在に伝えるもっとも古い資料ともいえる。

しかし、シーボルトが収集した標本は、未だ十分な調査・検証はなされておらず、課題も山積みしている。むしろ、生物多様性の重要性やその理解が深まるにつれて、その価値は年々増大している。シーボルト標本の概要とその重要性について、演者らは「シーボルトが見た水辺の原風景」として、現在の知見をまとめた。その上で、我々はさらにシーボルト標本の重要性や、更なる情報および課題が明らかとなった。本シンポジウムでは、これらシーボルト・コレクションの魚類学上の重要性、分類学、保全生物学上の価値を改めて紹介するとともに、それらに残される課題と今後の活用についても議論したい。

【プログラム】

第一部 趣旨説明

1. 10:00～10:30 シーボルト・コレクションの研究史
細谷和海（近畿大）

第二部

1. 10:30～10:50 江戸参府の行程
朝井俊亘（京都産業大附属高）
2. 10:50～11:10 シーボルトの淡水魚収集
川瀬成吾（琵琶湖博）
3. 11:10～11:30 シーボルトによる気象観測
財城真寿美（成蹊大経済）
4. 11:30～11:50 シーボルト・コレクションが日本産淡水魚の分類に与える影響
藤田朝彦（中部地方環境事務所）
5. 11:50～12:10 日本動物誌における魚類図版の問題点I：オイカワに見られるカワムツの特徴
井藤大樹（徳島県博）

休憩 12:10～13:00

6. 13:00～13:20 日本動物誌における魚類図版の問題点II：カネヒラに見られるカゼトゲタナゴの特徴
森宗智彦（自然研）
7. 13:20～13:40 シーボルトの金魚
根來 央（金魚研究家）
8. 13:40～14:00 シーボルト・コレクションの模式産地を兵站（ロジスティック
ス）から推理する
新村安雄（リバーリバイバル研）

第三部 総合討論 14:00～15:00

「2023 年度日本魚類学会年会」にご参加の皆様へ

ようこそ 長崎市へ。



あれも！これも！それも！

長崎市には歴史や街並み、
観光スポットだけではない魅力が盛りたくさん。
より便利に、より楽しく
長崎滞在を素敵な時間にする情報を集めました。

長崎の魅力は
こちらから



※イメージ

食事・土産

定番ちゃんぽん、皿うどんから魚種日本一のまちならではの新鮮な海の幸までおひとりでもグループでも味わいたい絶品グルメの数々。長崎の「食」をご堪能ください。



体験

長崎の歴史を訪ねるまち歩きや自然環境や生活に触れることができるアクティビティなど長崎滞在を充実させることができます。



長崎国際観光コンベンション協会
Nagasaki International Tourism and Convention Association